

2023 年度
法政大学大学院デザイン工学研究科
履 修 ガ イ ド

法政大学大学院デザイン工学研究科
Graduate School of Engineering and Design
Hosei University

法政大学大学院事務部大学院課デザイン工学研究科担当
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-33

Graduate Schools Administration Division
Graduate School of Engineering and Design, Hosei University
2-33, Ichigayatamachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0843, Japan

目次

2023年度カレンダー・学年暦	3
研究科長挨拶	5
デザイン工学研究科の3つのポリシー	6
Ⅰ デザイン工学研究科修業について	12
Ⅱ 科目の履修について	13
Ⅲ 休講について	20
Ⅳ 学位論文の提出について	21
Ⅴ 事務上の諸手続	26
Ⅵ 資格科目の履修について	29
Ⅶ 奨学金・研究助成制度・留学制度・グローバル教育の推進・首都大学院コンソーシアム・障がい学生支援	30
Ⅷ デザイン工学研究科履修案内	37
1. 建築学専攻（含 建築士資格取得について）	37
2. 都市環境デザイン工学専攻（含 建築士資格取得について）	47
3. システムデザイン専攻	55
市ヶ谷キャンパス案内図	61
教員オフィスアワー一覧	66

【デザイン工学研究科】2023年度カレンダー

- ... 通常授業日
- ... 補講日
- ... 補講日兼授業日
- ... 定期試験日
- ... 各期の開始日
- ... セッション (サマー・オータム・スプリング)
- ... 午前補講

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2023 (令和5) 年度 学 年 暦 (デザイン工学研究科)

デザイン工学研究科担当

デザイン工学研究科	
学 年 開 始	4月1日(土)
入 学 式	4月3日(月)
春学期前半授業期間	4月7日(金)～6月1日(木)
春学期前半補講日	授業期間内補講日：5月 6日(土)、5月20日(土)
春学期後半授業期間	6月2日(金)～7月20日(木)
春学期後半補講日	授業期間内補講日：6月24日(土)、7月 8日(土)
春 学 期 試 験 期 間	7月21日(金)～7月31日(月)
夏 季 休 業 期 間	8月1日(火)～9月19日(火)
夏 季 集 中 特 別 授 業 期 間	サマーセッション：8月1日(火)～8月7日(月) オータムセッション：9月13日(水)～9月19日(火)
9月卒業学位記交付式 秋 学 期 入 学 式	9月9日(土)
秋学期前半授業期間	9月20日(水)～11月11日(土)
秋学期前半補講日	授業期間内補講日：10月14日(土)、10月28日(土) 補講日：11月1日(水) 1・2限
秋学期後半授業期間 (補講日含む)	11月13日(月)～1月20日(土)
秋学期後半補講日	授業期間内補講日：12月2日(土)、12月16日(土) 補講日：1月12日(金)、1月16日(火)、1月17日(水)、1月18日(木)
冬 季 休 業 期 間	12月25日(月)～1月8日(月)
秋 学 期 試 験 期 間	1月22日(月)～2月1日(木)
春 季 休 業 期 間	2月2日(金)～3月31日(日)
春 季 集 中 特 別 授 業 期 間	スプリングセッション：3月7日(木)～3月20日(水)
学 位 授 与 式	3月24日(日)
学 年 終 了	3月31日(日)

[デザイン工学研究科]

- 4月10日(月)創立記念日は授業実施(5月1日(月)に振替)
- 5月1日(月)は、創立記念日の振替により休講
- 5月2日(火)は、レクリエーションデーにより休講
- 7月17日(月)海の日、9月23日(土)秋分の日、10月9日(月)スポーツの日、11月23日(木)勤労感謝の日は授業実施
(4月29日(土)昭和の日、5月3日(水)憲法記念日、5月4日(木)みどりの日、5月5日(金)こどもの日、11月3日(金)文化の日は授業を実施しない)
- 9月18日(月)敬老の日は夏季集中特別授業実施(オータムセッション)
- 11月1日(水)は午前のみ補講
- 11月2日(木)は休講
- 11月4日(土)は休講
- 1月12日(金)大学入学共通テスト準備日は補講
- 1月13日(土)大学入学共通テスト実施日は休講
- 3月20日(水)春分の日は春季集中特別授業実施(スプリングセッション)

	授業期間	試験期間	合計
春学期前半	8週6日		8週6日
春学期後半	7週0日	1週4日	8週4日
秋学期前半	7週5日		7週5日
秋学期後半	7週5日	1週4日	9週2日
夏季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
春季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
合 計	35週2日	3週1日	38週3日

※左表の授業期間は
ガイダンス期間・補講期間を含む

自発的であれ

大学は無論義務教育ではなく、学びたい者が自ら進み高度な勉強や研究を行うところですが、受け身に学んでいる人も少なからず見受けられます。大学院に進まれた皆さんはまさに望んでより高度な学びの場に自らを置くのですから、学びをはじめ、あらゆることに積極的、自発的であって欲しいと思います。専門の研究の内容が学部時代と比して高度になることは当然として、大学院で何を得るか。私はその重要なひとつとして自発的、を挙げます。自ら考え、自らの判断力で今何をすべきかを決める。そんな力を確立することを意識してもらえればと思います。

デザイン工学研究科は、市ヶ谷という都心の伝統ある文教地区に、デザイン工学部を基礎に開設されました。学部と同様、建築学、都市環境デザイン工学、システムデザインの3専攻が一体となって、ものとシステムの創生、建築デザイン、都市インフラの構築などを対象とした「総合デザイン(Holistic Design)」に関する先進的な教育と研究を行います。そこは「地球環境の保全」と「サステイナブル社会の創出」、及び「新しい文化的価値の創造」を目指したデザインのあり方やデザインに対する姿勢を自らと社会に問い続けて行く場となるでしょう。皆さんが自ら課題を見つけ、自ら解決策を探求提案し、新たな価値を創造しながら実践するような場となるでしょう。

本研究科では、こうした総合デザインに関する学部レベルを超える高度な涵養を目指す教育課程として、修士および博士後期課程を設け、7項目にわたる素養や能力、すなわち(1)企画・立案能力、(2)デザイン能力、(3)問題解決能力、(4)職業的倫理、(5)歴史と文化への理解、(6)地球環境への理解、(7)表現・伝達能力、を教育研究と学位授与の基本方針として掲げ、各専攻ではこれを実践的で革新的なカリキュラムによって、具体化し実現しています。課程を修了し総合デザイン力を身に付けた本研究科の学生こそは、貴重な社会的人材として、益々多様化し複雑化するこれからの時代の困難な要請に果敢に対応して行けるものと信じています。

2023年4月

デザイン工学研究科長

高見 公雄

— デザイン工学研究科の3つのポリシー —

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

（求める学生像）

デザイン工学研究科は、デザイン工学に関わる専門職業人と高度な研究能力を有する研究者の養成を目指している。これを達成するためには、入学前に獲得しておくべき基礎学力が問われる。また仕事が多様化・国際化している現代にあっては、専門分野に特化した人材以外に、多様な経験を有する幅広い人材が必要とされている。また、急速に進む技術革新に適応するため社会人に対するリカレント教育も必要である。

建築学専攻

修士課程においては、(1)建築デザイン、(2)建築・都市史、(3)建築構造、(4)建築環境、(5)建築構法の5分野の基礎的知識を有した受験生を入学させる。ただし、キャリア3年コースについては、広く豊かな視野をもった受験生を入学させ、入学後の最初の1年で、5分野の基礎的知識を学ばせる。

博士課程においては、高度な研究能力を身につけた受験生を入学させる。

都市環境デザイン工学専攻

修士課程においては、社会基盤システムの整備に係る分野の基礎的知識を有した受験生を入学させる。ただし、キャリア3年コースについては、広く豊かな視野をもった受験生を入学させ、入学後の最初の1年で社会基盤システムの整備に係る分野の基礎的知識を学ばせる。

博士課程においては、高度な研究能力を身につけた受験生を入学させる。

システムデザイン専攻

修士課程においては、もの・システムづくりの創生プロセスにおける分野の基礎的知識を有した受験生を入学させる。

博士課程においては、高度な研究能力を身につけた受験生を入学させる。

（入学制度）

以下の入学制度を設け多様な人材を受け入れる。

<修士課程>

- ①. 一般入学制度・学内推薦入学制度・学内特別推薦入学制度
- ②. 一般推薦入学制度
- ③. 社会人特別入学制度
- ④. 外国人学生特別入学制度

<博士後期課程>

- ①. 一般入学制度・学内推薦入学制度・学内特別推薦入学制度
- ②. 一般推薦入学制度
- ③. 社会人特別入学制度
- ④. 外国人学生特別入学制度

建築学専攻

デザイン工学研究科の入学制度に加え次の制度を設ける。

修士課程

選抜 1 年コース制度、キャリア 3 年コース制度

都市環境デザイン工学専攻

デザイン工学研究科の入学制度に加え次の制度を設ける。

修士課程

キャリア 3 年コース制度

システムデザイン専攻

デザイン工学研究科の入学制度に加え次の制度を設ける。（システムデザイン専攻には②一般推薦制度はない）

修士課程

システムデザイン専攻 自己推薦入学制度

博士後期課程

システムデザイン専攻 自己推薦入学制度

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科の目的は、総合デザイン力を身につけた実務家や研究者を社会に輩出することにある。これを実現するため、研究科および各専攻は、学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探求し創造して実践して行けるよう、以下のような特色を備えた教育課程を編成し、実施する。

【修士課程】

① 学部・大学院一貫教育カリキュラム

学部と大学院の教育的一貫性を実現するため、学部生には大学院科目の先取り履修ができるようにするとともに、修士課程の学生が学部の科目を必要に応じて履修できるようにする。また、教育カリキュラムの一貫性を学生に分かりやすくするため、学部から博士後期課程に至るまで年次順に配当する。

② 複数コース制

社会の多様化、異業種間の交流の激しい現代にあっては、専門分野に特化した人材以外に、多様な分野にまたがる幅広い人材が必要とされている。また、都心では社会人に対するリカレント教育のニーズも高い。こうした要請に応えるため、異なる科目選択や修業年限の違いによる複数の履修コースを設ける。

③ スタジオにおけるデザイン教育

総合デザイン力を育成するために、スタジオと呼ばれる作品制作の場を設ける。スタジオは多数の教員と学生が共同作業し、研究内容等を議論、批評する場であり、ここで、デザイン教育を強力に推し進める。対応する授業科目を「スタジオ科目」に多数配置する。

④ 実務教育科目と学内外実習科目

実務の基礎として必要な要素技術を系統的に習得できる実務教育科目を用意する。また、最大で通年分に相当する実務経験期間を保障する学内外実習科目を用意する。対応する授業科目を「スタジオ科目」、「プロジェクト科目」に配置する。

⑤自主的活動に対する単位認定

「スタジオ科目」、「プロジェクト科目」では、個人またはグループがキャンパス内外で企画・デザインを提案した場合、国内外のデザインコンペティションへ参加した場合、また、周辺自治体、商店街、地域住民生活などに関する課題やプロジェクトに取り組んだ場合には、自主的な活動として単位評価する授業科目を設置する。

⑥成績評価の公正化・公開制

「スタジオ科目」や「プロジェクト科目」は、その多くが複数教員によって指導されるので、評価の公平性が担保される。また、ディプロマ（修士論文、修士設計（設計図書を付帯する修士論文）など）や授業科目の一部はその成果物が外部講師を含めた公開の場で講評される。

【博士後期課程】

①学位論文作成準備指導

博士後期課程では博士学位論文を作成するために必要となる高度な技術や知識を入学初年度で習得させるために専門分野に特化した講義科目を「専門科目」に配置する。これにより研究の実践と指導を内容とする「プロジェクト科目」の遂行を支援する。

②コースワークの設定

博士後期課程では、各専攻で「専門科目」ならびに「プロジェクト科目」を設定する。「専門科目」では、各専門分野の最先端の技術や研究レベルを具体的に把握するとともに、テーマを絞った課題について議論や実践の手法を学ぶ。「プロジェクト科目」では、指導教員のもと、研究を着実に遂行し、学術論文などの作成技術を修得しながら、最終的には博士の学位論文としてまとめることを目指す科目である。

建築学専攻

デザイン工学研究科のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下のカリキュラムを用意している。

修士課程

- ①. 共通基盤科目、基盤科目、専門科目の履修
- ②. スタジオ系とラボ系の 2 つのコース。スタジオ系では、国際的な建築教育憲章に対応するカリキュラムによって徹底したデザイン教育を行い、修士設計に取り組む。ラボ系では、プロジェクト科目を習得した上で、修士論文に取り組む。
- ③. 1 級建築士の実務認定を在学中に得られる豊富なインターンシップカリキュラム
- ④. 海外の建築動向を肌で体験する海外研修プログラム

博士後期課程

専門科目およびプロジェクト科目を修得した上で、博士論文に取り組む。

都市環境デザイン工学専攻

デザイン工学研究科のカリキュラム・ポリシーに則り、次の科目を配置する。

修士課程

共通基盤科目 基盤科目 専門科目 スタジオ科目 プロジェクト科目

博士後期課程

専門科目 プロジェクト科目

システムデザイン専攻

デザイン工学研究科のカリキュラム・ポリシーに則り、次の科目を配置する。

修士課程

共通基盤科目 基盤科目 専門科目 スタジオ科目 プロジェクト科目

博士後期課程

専門科目 プロジェクト科目

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

<修士課程> 修士（工学）

修士課程において所定の単位とコースワークを履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査並びに最終試験に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。これにより、修士課程では総合デザイン力を身につけた高度な専門職業人として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

デザイン工学研究科では、修了者が、総合デザイン力を身に付けた人材として多様化・複雑化した社会の要請に応えることができるため、次の7項目にわたる素養や能力の獲得を学位授与の方針として掲げる。

- ①. デザイン目標の発見とそのコンセプトを設定する能力【企画・立案能力】
- ②. 高い個別専門技術を組み合わせデザインする能力【デザイン能力】
- ③. 問題を幅広い観点から捉え、解を自主的・継続的に見いだす能力【問題解決能力】
- ④. デザインの社会的責任を理解し、不測の事態にも誠実に対処する姿勢【職業的倫理】
- ⑤. 人類の遺産である歴史と文化を理解する素養【歴史と文化への理解】
- ⑥. 地球環境の視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる資質【地球環境への理解】
- ⑦. 研究・企画内容を論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力【表現・伝達能力】

建築学専攻

デザイン工学研究科の修士課程ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養や能力を備えることを学位授与の方針とする。

総合デザイン（Holistic Design）を理解し実践する能力
歴史・文化と建築が不可分であることを理解する素養
持続可能な地球と社会の実現を図るグローバルな職業倫理
安心な生活・安全な構造・快適な環境を実現する専門技術力
技術発展と芸術創造に関する相補的で均衡ある理解
企画・設計作業に必要な高度な IT 能力
アイデアを論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力

都市環境デザイン工学専攻

社会基盤システムの整備に係る分野で、デザイン工学研究科の修士課程ディプロマ・ポリシーに記載された条件を満たす人材に学位を授与する。

システムデザイン専攻

もの・システムづくりの創生プロセスにおける分野で、デザイン工学研究科の修士課程ディプロマ・ポリシーに記載された条件を満たす人材に学位を授与する。

<博士後期課程> 博士（工学）

博士後期課程において所定の講義科目とプロジェクト科目を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査並びに最終試験に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。

これにより、博士後期課程ではより高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者（専門特化型人材）として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

デザイン工学研究科では、修了者が、総合デザイン力を身に付けた人材として多様化・複雑化した社会の要請に応えることができるため、次の7項目にわたる素養や能力の獲得を学位授与の方針として掲げる。

- ①. デザイン目標の発見とそのコンセプトを設定する能力【企画・立案能力】
- ②. 高い個別専門技術を組み合わせデザインする能力【デザイン能力】
- ③. 問題を幅広い観点から捉え、解を自主的・継続的に見いだす能力【問題解決能力】
- ④. デザインの社会的責任を理解し、不測の事態にも誠実に対処する姿勢【職業的倫理】
- ⑤. 人類の遺産である歴史と文化を理解する素養【歴史と文化への理解】
- ⑥. 地球環境の視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる資質【地球環境への理解】
- ⑦. 研究・企画内容を論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力【表現・伝達能力】

建築学専攻

デザイン工学研究科の博士課程ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養や能力を備えることを学位授与の方針とする。

総合デザイン（Holistic Design）を理解し実践する能力
歴史・文化と建築が不可分であることを理解する素養
持続可能な地球と社会の実現を図るグローバルな職業倫理
安心な生活・安全な構造・快適な環境を実現する専門技術力
技術発展と芸術創造に関する相補的で均衡ある理解
企画・設計作業に必要な高度な IT 能力
アイデアを論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力

都市環境デザイン工学専攻

社会基盤システムの整備に係る分野で、デザイン工学研究科の博士課程ディプロマ・ポリシーに記載された条件を満たす人材に学位を授与する。

システムデザイン専攻

もの・システムづくりの創生プロセスにおける分野で、デザイン工学研究科の博士課程ディプロマ・ポリシーに記載された条件を満たす人材に学位を授与する。

I. デザイン工学研究科修業について

大学院における教育は、開講科目の授業（単位制度によるもの）と、学位論文の作成等に関する研究指導によって行われる。

1. 修業年限について

修業年限とは修了に必要な標準的年数、在学年限とは大学に在籍することのできる最大の年限。

◎ 修士課程（博士前期課程）

専攻	コース名	標準修業年限	在学年限
建築学専攻	選抜1年コース	学部選抜：2年※ 社会人選抜：1年	4年 2年
	総合2年コース	2年	4年
	キャリア3年コース	3年	6年
都市環境デザイン工学専攻	総合2年コース	2年	4年
	キャリア3年コース	3年	6年
システムデザイン専攻	—	2年	4年

※学部選抜1年コースは、標準修業年限は2年だが、1年での早期修了を目指すコースです。

◎ 博士後期課程

専攻	標準修業年限	在学年限
建築学専攻	3年	6年
都市環境デザイン工学専攻		
システムデザイン専攻		

2. 学位及びその授与

修士課程において所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査並びに最終試験に合格した者に「修士（工学）」が授与される。

博士後期課程において所定の科目を履修し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査並びに最終試験に合格した者に「博士（工学）」が授与される。

II. 科目の履修について

1. 法政ポータルサイト (Hoppii)

大学には履修や成績、シラバスなど、学生が利用する様々なシステムやサイトがあります。

それら全てのリンク先をひとまとめにしたポータルサイトが「法政大学ポータルサイト Hoppii (Hosei portal to pick up information)」です。今後、授業や成績、大学からの情報を確認したい場合には、まず「Hoppii」にアクセスしてみましょう。

トップページには各種システムやサイトのリンク先が掲載されており、キャンパス毎のお知らせ（災害等による休講等の重要なお知らせも含む）も確認できます。ぜひ、自分のパソコン・スマートフォン等にブックマークしておいてください。なお、パソコンとスマートフォンでは、利用できる機能が異なりますのでご注意ください。

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp>



2. 法政大学情報システムについて

個人の履修登録や成績の確認は、情報システムを通して行う。利用に当たっては、各個人に配付されるユーザ ID およびパスワードを他人に知られることのないよう、各自で厳重に管理すること。

主な機能は以下のとおり。各機能の利用開始時期および利用方法は、サービスによって異なる。掲示などで連絡するので注意して確認すること。

	サービス名	サービス内容
1	各種お知らせ	大学からの個人／全体／学部・学科宛のお知らせを確認できる。
2	休講状況照会 補講状況照会	① 大学の休講情報，補講情報を確認できる。 ② 自分が履修登録した授業の休講情報，補講情報を確認できる。 ただし，参照できるのは履修登録確定後。
3	授業・時間割照会	自分が履修登録した授業時間割を確認できる。
4	単位修得状況照会	成績通知書の印刷，単位修得状況の照会ができる。
5	履修申請	授業の履修登録申請ができる。
6	キャリア就職	各種支援行事への参加申請や，企業情報，求人情報の検索ができる。
7	奨学金申請	各種奨学金の出願申請や，採用結果の確認ができる。
8	学生情報変更申請	本人ならびに保証人の住所・電話番号の変更申請ができる。

【重要】

「履修登録」「履修登録科目確認」「成績の通知」は、すべて情報システムにて行う。

登録・確認期間等詳細は掲示などで通知する。忘れずに登録・確認するよう、各自注意すること。

3. 履修登録の流れ

詳細は「デザイン工学部・デザイン工学研究科WEB履修登録の手引き」参照。

【注意】年に一度の履修登録となるので、秋学期科目も、4月に履修登録をすること。



※上記記載の時期は予定。履修手続きなどについて具体的な期間や日時は「WEB履修の手引き」・WEB掲示板をよく確認すること。

■ Web 履修登録

Web 履修登録は、指定された期間内に各自が情報システムを使って Web 上で履修申請を行うものである。履修登録確認通知書の印刷も、各自で情報システムを使って行う。履修登録期間は掲示等で告知する。

4月に一年分の科目の履修登録を行う。

Web で履修登録を行う際は、修了要件に満たないなどのエラーがある場合、登録が完了しない。修了要件などをよく確認し、事前に履修計画を立て、自分が履修する科目を別途書き出してから実際の Web 履修登録に臨むようにすること。

【重要】

「履修登録」「履修登録科目確認」「成績の通知」は、情報システムにて行う。（一部例外あり）
登録・確認期間等詳細は掲示などで通知する。忘れずに登録・確認するよう、各自注意すること。

■ シラバス（授業概要）について

次の URL を参照のこと <http://syllabus.hosei.ac.jp>

4. 履修上の注意点

授業科目を履修し単位を修得するために、学年のはじめに履修科目の登録を行わなければならない。

デザイン工学研究科に年間登録制限はないが、出席の意志がない科目は履修登録をしないこと。（後述する GPA に影響を及ぼすので注意すること。）

【研修生・委託研修生】

研修生、又は委託研修生のうち、在留資格が「留学」の外国人留学生は、出入国管理法により週 10 時間（7 科目）以上、授業科目の履修が義務付けられている。授業科目の履修登録の際にもこれを下回らないよう手続きすること。

【研究生】

研究生のうち、在留資格が「留学」の外国人留学生は、指導教員と協議の上、研究テーマを設定し専ら研究活動を行うことが義務付けられている。指導教員と十分打ち合わせ、研究計画を立てるようにすること。

（1）指導教員

- ① 入学前に研究指導を受けようとする指導教員を決め、承認を得ておくこと。
- ② 原則として専任教員とする。
- ③ 指導教員を変更する場合には、新旧両教員の承認を得て、デザイン工学研究科担当に届け出ること。（指導教員が留学、休講等による場合も同様）

（2）他専攻、他研究科の履修登録について

- ① 他専攻・研究科科目を履修する場合、10 単位まで修了要件として認められる。ただし 10 単位を超える分は修了要件には含まれない。
- ② 他研究科科目を履修希望している場合や、教職・資格科目を履修希望している場合、「首都大学院コンソーシアム」制度で他大学院の科目を履修希望している場合は、あらかじめデザイン工学研究科担当へ相談すること。

(3) 先取り科目の認定について

法政大学学部卒業生で学部4年次に大学院科目を先取り履修した者は、修士課程1年次の4月に単位認定申請を行うこと。この認定申請を行わないと、大学院の科目として認められないので注意すること（詳細はWEB掲示板を確認すること）。

(4) 登録期限の厳守

- ① 履修登録は所定期間以外には受け付けない。
- ② 履修登録内容の変更は、履修登録期間内に完了すること。

(5) 「修士論文」

- ① 修士課程の最終学年（建築学専攻選抜1年コースは1年生、キャリア3年コースは3年生、それ以外は2年生）は4月に必ず「修士論文」を履修登録すること。（修士設計等を提出する場合も、科目名は「修士論文」を登録すること。）
- ② 修士論文の履修登録を行わないと修士論文審査を受けることができないので注意すること。

(6) 修士課程の修了および履修について

- ① 修士の学位を得ようとする者は、2年以上在学し大学院学則の定めるところにより、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ② デザイン工学研究科建築学専攻選抜1年コースで修士の学位を得ようとする者は、1年以上在学し大学院学則が定める所定の、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。
- ③ デザイン工学研究科建築学専攻キャリア3年コース及び都市環境デザイン工学専攻キャリア3年コースで修士の学位を得ようとする者は、3年以上在学し大学院学則の定める所定の、45単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。
- ④ 修士論文は、大学院学則定めるところにより各研究科が認めた場合に限り当該専攻分野の特定の課題に関する研究成果をもって、これに代えることができる。
9月修了希望者は、修了希望年度の4月に申請が必要。

・建築学専攻

学生は、以下A、Bのどちらかを入学直後の4月上～中旬に選択しなければならない。

※「キャリア3年コース」については、2年次進級時に系の変更申請が可能である。

A：「ラボ系」修士論文が修了時の提出義務となる

B：「スタジオ系」修士設計が修了時の提出義務となる

※「スタジオ系希望者面談」を参考に指導教員（主査）と相談の上、決定すること。

1) 各系の修了要件

A：ラボ系

- ① 「共通基盤科目」と「基盤科目」から合計4単位以上を履修し、かつ「共通基盤科目」と「基盤科目」および「専門科目」から12単位以上を履修しなければならない（コースを問わず）。
- ② 「建築学修士研修1・2」及び「建築学修士プロジェクト1・2」を必修とする。
- ③ 必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

B : スタジオ系

コースを問わず「共通基盤科目」と「基盤科目」から合計 4 単位以上を履修し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士設計を提出し最終試験に合格しなければならない。

※「選抜 1 年コース」は「デザインスタジオ 8」または「デザインスタジオ 10」の 1 科目及び「デザインスタジオ 11」を必修とする。

※「総合 2 年コース」と「キャリア 3 年コース」は「デザインスタジオ 11」を必修とし、加えて※デザインスタジオ 8～10 の中から 12 単位以上を履修しなければならない。かつ、必要な研究指導を受けた上、修士設計を提出し最終試験に合格しなければならない。

※例えば「デザインスタジオ 8 (X) 」と「デザインスタジオ 8 (Y) 」などの組合せでも可。

2) 各コースの修了要件

- ① 「選抜 1 年コース」は修了所要単位 30 単位
- ② 「総合 2 年コース」は修了所要単位 30 単位
- ③ 「キャリア 3 年コース」は専門科目（建築学科合併科目）から、デザインスタジオ 1～6 のうちの 2 科目を含む 8 単位以上（ただし、修了要件としての認定は 15 単位を上限とする）を履修し、修了所要合計単位 45 単位とする。（合併科目以外の学部科目履修は修了要件には含まれないが、一級建築士受験申請時に必要となる履修記録として残される。）

・都市環境デザイン工学専攻

- 1) 総合 2 年コース：2 年以上在学して 30 単位以上を修得しなければならない。
- 2) キャリア 3 年コース：専門科目（学部合併科目）は、デザイン工学部都市環境デザイン工学科の科目を指し、キャリア 3 年コースの研究科生が 1 年次に履修する科目である。上記科目のうち、選択必修科目 8 単位以上を含む計 8 単位以上を履修しなければならない。ただし、修了要件としての認定は計 15 単位を上限とする。3 年以上在学して 45 単位以上を修得（学部合併科目の 8 単位以上を含む）しなければならない。

※両コースとも必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

・システムデザイン専攻 <注意> 入学年度によって必修となる科目名が異なるので注意すること。

2 年以上在籍し、30 単位（①共通基盤科目と②基盤科目の 3 科目 6 単位以上を含む※1）以上を修得し、修士論文あるいは作品を提出し、最終試験に合格しなければならない。必修・選択必修は P66～P75 で確認すること。

※1) ①②単独、①②合算のどちらでも可

（7）博士後期課程の修了および履修について

- 1) 博士の学位を得ようとする者は、博士後期課程に 3 年以上在学し大学院学則の定めるところにより、授業科目を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者については、1 年以上在学すれば足りるものとする。
- 2) 前項のただし書にかかわらず、修士課程を 1 年で修了した者の在学期間に関しては、博士後期課程に 2 年以上在学しなければならない。
- 3) 大学院学則の定めるところにより、システムデザイン専攻においては 15 単位以上、建築学専攻及び都市環境デザイン工学専攻においては 16 単位以上、修得するものとする。

・ **建築学専攻**

専門科目 2 単位を含む 16 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

・ **都市環境デザイン工学専攻**

専門科目 2 単位以上、ならびにプロジェクト科目 14 単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

・ **システムデザイン専攻** <注意> 入学年度によって必修科目が異なるので注意すること。

専門科目 2 科目 4 単位以上を含む 15 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

(8) 試験

- ① 試験は授業内試験として、毎学期末あるいは学年末に実施される。また、授業担当者の判断により、レポートをもって試験に代えることがある。
- ② 試験及びレポートは履修登録をした科目のみ受験が認められる。

(9) 成績の評価と GPA 制度の導入について

① 成績の評価

「S」～「C-」を合格とし、「D」を不合格、「未受験・採点不能」を評価Eとする。科目によっては、上記の他、P/F 評価〔(Pass/合格)・(Fail/不合格)〕を導入している。

② GPA 制度

a. GP (grade point)

「S」～「C-」それぞれGP (グレードポイント : grade point) がつく。

各段階成績評価とGPの関係は以下の通り。

素点評価する場合	素点評価しない場合	評価	GP	合否
100～90 点	学習目標を満たし卓越した成績をあげた	S	4.0	合格
89～87 点	学習目標を満たし優秀な成績をあげた	A+	3.3	
86～83 点		A	3.0	
82～80 点		A-	2.7	
79～77 点		B+	2.3	
76～73 点	おおむね学習目標を満たしている	B	2.0	
72～70 点		B-	1.7	
69～67 点		C+	1.3	
66～63 点	最低限の学習目標を満たしたが不十分な点も見られる	C	1.0	
62～60 点		C-	0.7	
59～ 0 点	学習目標を満たしていない	D	0.0	不合格
未受験, 採点不能	未受験, 採点不能	E		

b. GPA (grade point average)

GPA は成績を数値化し、客観的に評価するための指標である。算出方法は以下の通り。計算値は小数点以下第 3 位を四捨五入して表記する。なお、上記の P/F 評価は GPA には換算されない。

$$\text{GPA} = \frac{\text{〈履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数〉の合計}}{\text{履修登録した全科目の合計単位数}}$$

c. GPA を表示する書類について

- ・成績通知表…各学期のGPAと直近の学期までの在学期間を通算したGPA
- ・成績証明書…直近の学期までの在学期間を通算したGPA

③ 登録の取消について

未受験その他によるE評価の科目は、GPA 計算式において、GPを0点として分子に算入し、単位数を分母に参入する。その為、E評価が多いほどGPA が低下する。こうした評価方法を採用している理由はシラバスを活用し、慎重に科目登録をすることが望ましいからである。一度登録した科目は自己責任の下で履修すること。登録取消の期限については、履修登録の際に必ず確認すること。

Ⅲ. 休講について

(1) 休講情報などの確認方法

休講情報は法政大学 Web 掲示板で確認できます（Web 掲示板は Hoppii よりアクセスできます）。

(2) 特別の休講措置

授業開始から 30 分を経過しても担当教員が出講しない場合は休講となります（その場合、教室変更されていないか確認してください）。また、その他特別の休講措置については、次の通り定めています。当該キャンパスに属さない学部の授業については、授業が実施されるキャンパスの措置に従います。

（例）市ヶ谷キャンパスの学部が多摩キャンパスで行う授業については多摩キャンパスの基準に従う。

	市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
大規模地震の発生が予想される時	大規模な地震の発生が予想される時に、気象庁所管の『地震防災対策強化地域判定会』が招集され、状況によって『警戒宣言』が発令されます。本学では、『判定会』が招集された段階で（ＴＶ、ラジオ等により確認）休校とします。 なお、警戒宣言が解除された時、または判定会が解散された時は、休校を解いて平常授業に復します。授業再開に伴う取扱いについては交通機関のストライキの措置に準じます。		
台風や大雪などで交通機関が不通になったとき	法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。 （１）天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り周知します。 a. 1・2 時限の授業について、当日 6:00 までに大学公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。また、6:30 頃までに大学公式ホームページに同内容を掲載します。 b. 3～5 時限の授業について、当日 10:00 までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。 c. 6・7 時限の授業について、当日 15:00 までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。 （２）事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を大学公式ホームページに掲載し、学生・教職員に周知をします。 （３）上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日 17:00 までに翌日の授業休講を決定し、大学公式ホームページに掲載することがあります。		
交通機関のストライキの場合	<p><ＪＲのストライキにより電車が運行されない場合></p> <p>① 6：00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。</p> <p>② 10：00 までにストライキが解除されない時は第一部の授業を休講とします。</p> <p>③ 正午までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。</p>	<p><ＪＲ、京王電鉄のストライキにより、両方またはいずれか一方の電車が運行されない場合></p> <p>① 6：00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。</p> <p>② 10：00 までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。</p> <p><京王バスのストライキにより、多摩地区への路線バスが運行されない場合></p> <p>① 8：00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。</p> <p>② 正午までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。</p>	<p><ＪＲのストライキにより電車が運行されない場合></p> <p>① 6：00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。</p> <p>② 10：00 までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。</p>

IV. 学位論文の提出について

1. 研究倫理教育の実施について

(1) e-learning 教材の受講

日本学術振興会の「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」の教材（テキスト版を Hoppii の「研究倫理教育（専攻名）」の教材にアップ）を基にした、研究倫理が学習できる e-learning 教材を受講する。受講に必要な ID やパスワードは、毎年 6 月末頃をめぐりに、学生の大学メールアドレスに個別に送付される。

(2) 受講修了証の提出

e-learning 教材のすべての単元を受講すると「修了証書」が発行される。その修了証書（pdf ファイル）を「学習支援システム（Hoppii）の「研究倫理教育（専攻名）」の課題提出機能により提出する。提出先については、各専攻より、別途案内する。

(3) 受講の期限

毎年 9 月 30 日までに必ず受講を完了し、修了証書を提出する。受講および提出が確認できない場合、修士および博士の学位審査はできないので注意すること。

2. 学位論文審査基準

本学学位規則が求める申請要件を満たし、本研究科および各専攻が定める手続きの下に提出された学位申請論文は、以下に記す基準に従って審査される。

(1).修士課程：修士論文（全専攻）、または修士設計（建築学専攻）

本研究科の各専攻会議（大学院教室会議）は、修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し、審査に当たる主査と 1 人以上の副査を定める（注）。学位申請者は、以下の項目について、主査と副査による査読または予備審査、および公聴会における学位申請論文に関する試問を受ける。

- < 1 > 専門分野の現状と問題点を正しく認識し、その解決に客観的な視点から取り組んでいる。
 - < 2 > 専門分野に関する広範な知識を有し、高度な専門技術に習熟している。
 - < 3 > 学位申請論文を含む提出物は、正確な日本語または英語により記述されている。
 - < 4 > 母国語以外に、専門分野に必要な一つ以上の外国語を理解するに十分な能力を持つ。
- 以上に関する評価結果に基づき、研究科教授会は修士の学位を授与することの可否を議決する。

(2).博士後期課程：博士論文

博士の学位申請に対し、その受理の決定および論文審査のため、本研究科内に審査委員会を置く。審査委員長は原則として研究科長が務める。受理の決定に当たっては、学位申請論文が以下の要件を満足しているかについて確認する。ただし、以下の要件に該当しない特別な事例については、審査委員会で審議し、受理の可否を議決する。

- < 1 > 論文の内容が、学術論文誌に第一著者として、1 編以上（課程博士）あるいは 2 編以上（論文博士）、原著論文として掲載されている、または、掲載が決定されている。学術論文誌とは、国内外の学会・研究機関・学術誌編集組織により定期的に刊行され、掲載に査読を要する論文誌で、各専攻がその権威を認めたものを言う。また、**原著論文は、学術論文誌と同等な水準を有する単著による学術図書に代えることができる。**なお、専攻並びに専門分野によっては、その他の学術論文、または追加的な資料の提出を求めることがある。

< 2 > 学位申請論文を含む提出物の使用言語は、日本語または英語とする。

< 3 > 学位論文として、審査に値する形式と内容水準を備えている。

審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と2人以上の副査(注)からなる審査小委員会を設ける。小委員会では、学問的な内容に関する審査と並んで、以下の諸点に関する試験または試問を経て可否を判定する。

< 1 > 母国語以外に、専門分野に必要な一つ以上の外国語による執筆、発表、討議を行うに十分な能力を有する。

< 2 > 審査の過程で公聴会を実施し、公正な外部評価を受ける。

< 3 > その他、本研究科で定めるディプロマポリシーの要件を満たしている。

以上により、審査小委員会は審査の結果を審査委員会に報告し、審査委員会は博士の学位を授与することの可否を議決する。

注：本研究科の修士課程および博士後期課程の学生は、履修から進級および修了に至るコースワークにおいて、主査（主指導教員）と1人以上の副査（副指導教員）の下で指導を受ける。

デザイン工学研究科の学位論文は本学図書館に永久保存される。提出方法は各専攻により異なる場合があるので、学位論文を提出する際には、各指導教員及び専攻主任に問い合わせること。

3. 修士論文作成の基準

(1) 提出方法

修士論文の提出方法（形式）は主に以下 a. b. の2種類あり、専攻によってその提出方法が異なる。各指導教員・専攻主任に確認すること。

a. 電子ファイルでの提出

pdfファイル、提出先や提出日時等の詳細は、当研究科HPに掲載の「博士学位申請ガイド」で確認すること。

b. 電子ファイル以外での提出

A4判とし、横書きとし、1つの論文につき1つのファイルに整然と綴じる（分冊不可）。簡易製本は可とする。

(2) 論文表紙の形式（pdf、紙ベース共通）

表紙には以下の事項を漏れなく記載すること。

記載事項

a. 《修了年度》年度修士論文（注）年度は西暦で記載すること。

b. 指導教員名

c. 論文題名

d. 所属

e. 学生証番号

f. 氏名

◎ 修士論文は今後の研究に必要となることがあるので各自、コピーを保管しておくこと。

◎ 紀要については別途連絡する。

4. 博士の学位申請手続

本学博士後期課程3年次に在学中で、所定の科目を履修済または履修見込の者および本学博士後期課程に3年以上在学し、所定の科目を履修した後、退学して3年以内の者が博士の学位を修得する場合を、「課程による者の学位」として**課程博士**、上記以外の者が博士の学位を申請する場合を、「課程によらない者の学位」として**論文博士**とそれぞれ略記する。

(1) 申請

正式な申請手続を行う前に、必ず、指導教員と学位申請についての打合せを行うこと。

申請予定者は、申請の前に「博士学位申請ガイド」をダウンロードして確認し、下記の書類をダウンロードして準備し窓口提出又はパスワードを付けてメール送信 jsd@hosei.ac.jp。提出書類をもって論文受理の可否を審議し、受理が決定した場合は審査へ進む。詳細は、上記の「博士学位申請ガイド」を参照すること。

提出書類	課程博士	論文博士	備考
① 博士論文審査願（課程博士）	1部	—	指定用紙【様式1】
① 博士学位申請書（論文博士）	—	1部	指定用紙【様式1】
② 博士論文目録	1部	1部	指定用紙【様式2】
③ 論文（審査用）上製本する必要はない。簡易製本またはフラットファイル等に綴じたもの	4部	4部	
④ 論文要旨（4,000字以内）	1部	1部	指定用紙【様式3】
⑤ 論文のデータファイル	1部 1枚	1部 1枚	PDFデータ CD-R 注1)
⑥ 履歴書	1部	1部	指定用紙【様式4】
⑦ 研究業績	1部	1部	指定用紙【様式5】
⑧ 副論文目録（必要に応じ）	1部	1部	指定用紙【様式6】
⑨ 副論文（必要に応じ）	4部	4部	
⑩ 電子公開複写許諾書	1部	1部	指定用紙【様式7】
⑪ 電子公開に関する報告書	1部	1部	
⑫ 住民票（論文博士のみ提出）	—	1部	指定用紙【様式8】
⑬ 最終学歴証明書（論文博士のみ提出）	—	1部	

注1) 学位申請時に提出の必要はない。後述の「(7) 論文のインターネット公表」を参照。

(2) 申請期限

提出にあたっては、事前に指導教員に相談すること。

① 課程博士（博士後期課程在学中の者及び単位修得退学後3年以内の者）

3月授与希望者：前年10月31日

9月授与希望者：同年4月30日

② 論文博士

随時受付可、審査期間6か月～1年程度（事前に本学専任教員と打ち合わせを行い、提出の準備をすること。）

(3) 論文の形式

審査のため提出する論文は著書以外、原稿のサイズは A4 判とし、次図を参照して簡易製本またはフラットファイル等に綴じて提出すること。

<表紙>

横書き

論文題名

氏名

<背表紙>

論文題名

氏名

2cm あける

4cm あける

(4) 審査料

受理が決定した後に、所定の審査料を納入すること。

- ・本学博士後期課程 3 年次に在学中で、所定の科目を履修済または履修見込みの者 無料
- ・本学博士後期課程に 3 年以上在学し、所定の科目を履修した後、単位修得退学して 3 年以内の者 11 万円
- ・上記以外の者が博士の学位を申請する場合 22 万円
- ・ただし、本学専任教職員は 11 万円

(5) 審査

学位規則に基づいて審査を行う。学位規則については大学院 HP 参照。

(6) 学位の授与

論文審査に合格すれば 9 月または 3 月に学位が授与される。

9 月学位記交付式 9 月 9 日

3 月学位授与式 3 月 24 日

(7) 論文のインターネット公表

2013 年 4 月 1 日から学位規則の一部を改正する省令が施行され、論文のインターネット公表が義務化された。論文はインターネットによる全文公表が前提。学位が授与された博士論文は、学位授与後 1 年以内に、法政大学 学術機関リポジトリを経由してインターネット上に公開され、国立国会図書館にも収蔵される。所定の期日までに CD-R にて論文全文の最終版のデータファイルを 1 部提出すること。

なお、止むを得ない理由により、論文の全文に代えてその要約したものを公表する場合には、その理由を予め届け出ること。

(8) 論文の保存

論文は法政大学図書館および法政大学大学院（デザイン工学研究科）にて永久保存するので、**製本業者による製本（ハードカバー）**したうえで、所定の期日までに2部提出すること。形式は（3）の図を参照。表紙および背表紙（黒色）に論文題名と氏名等を記載（金色）。

(9) 紀要

紀要については別途連絡する。

(10) その他

学位授与の可否については、申請者に直接連絡する。

学位申請後、審査期間中に住所を変更した場合には、必ずデザイン工学研究科窓口へ届け出ること。

研究者倫理の向上に向けて

法政大学は、不正行為を抑止する環境整備として、研究倫理教育の実施による研究者倫理の向上を推進している。大学院生各位は、研究者倫理に関する規範意識を身につけるため、図書や e-learning のツールを使って、研究倫理教育の学習を行うことが求められている。

◆各専攻で修士論文や修士設計の提出前に行われる「研究者倫理に関する講義」の受講を必須とする。また、提出カードには、この講義の受講日欄に日付を明記し、加えて不正行為をしていないとする誓約欄に自筆署名すること。それ以外の研究倫理教育の基本を学べる方法を以下に紹介する。

◆『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編、丸善出版）

※文部科学省 HP「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－【日本語テキスト版】」

（PDF:1.78MB）（※日本学術振興会ウェブサイトへリンク）

http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/1353972.htm

◆ eL CoRE（日本学術振興会、e-learning）

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』をもとに、時間と場所を選ばずに研究倫理を学修できるように作成した e ラーニング教材。平均学習時間は約 90 分。受講料は無料。

<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>

<研究者倫理規範の具体例>

■ 研究の妥当性

研究目的が、修士や博士などの学位修得を目的とするものであれ、国際的な大規模プロジェクトのようなものであれ、研究には科学的な妥当性・独創性が必要。これらを確認するためには、先行研究を入念に調査・分析することは当然だが、関連する学協会が定める倫理綱領・行動規範などと、自分が進めようとする研究の目的に整合性があるかどうかも見定める必要がある。

<出典> 日本学術振興会『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』

■ 研究活動における不正行為

I 捏造（Fabrication）

存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

II 改ざん（Falsification）

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

Ⅲ 盗用 (Plagiarism)

他の研究者のアイデア, 分析・解析方法, データ, 研究結果, 論文又は用語を, 当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

Ⅳ その他

同じ研究成果の重複発表, 論文著作者が適正に公表されない不適切なオーサーシップなども不正行為の代表例と考えることができる。

※ 二重投稿は, 適切な引用がされていない場合, 自己盗用とみなされることがある。

〈出典〉 文部科学省『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』

V. 事務上の諸手続

1. 問い合わせについて

デザイン工学部・研究科は校舎が独立していることから、大学に関するすべての問い合わせがデザイン工学部・研究科事務に寄せられます。窓口の混雑緩和のため、以下ご協力をお願いします。

① まずは LINE 公式アカウントに質問する

② 大学 HP、Web 掲示板、履修ガイドなどに書かれている情報を再確認する また、問い合わせたい内容の情報元・発信元を再確認する。(デザイン工学部・研究科事務の発信でないものは、対応できないことがあります)

※ 特に「4 主な手続きと担当窓口」を確認し、問い合わせ先を事前にご確認ください。

③ ①②でも解決できなかった場合、デザイン工学部・研究科事務問い合わせフォームに問い合わせる。

2. 法政大学 LINE 公式アカウントについて

法政大学の全学生を対象とした LINE 公式アカウントを開設しました。

↓ 友達追加はこちら

LINE 公式アカウントでは、問い合わせ内容をメッセージで入力すると、自動で応答をします。

困ったことがあったら、まずは LINE 公式アカウントにお問い合わせください。

※ メッセージ内容は事務管理者で確認をしています。いたずらでメッセージを送ることはおやめください。



3. デザイン工学部・研究科問い合わせフォームについて

デザイン工学部・研究科問い合わせフォームを開設しています。

事務に問い合わせをする際は、積極的にご利用ください。

デザイン工学部・研究科問い合わせフォーム : <https://forms.gle/uAkgNrp9NeARekxj6>



4. 主な事務取扱業務について

事務取扱業務については以下のとおりである。

	内 容	担 当
授業・試験	休講・教室変更の連絡	デ工研究科窓口
	履修登録方法	
	大学院学生研究補助金の申し込み	
	「成績通知書」	
学籍	本人ならびに保証人の 「住所変更届」、「電話番号変更届」	情報システムから申請
	「氏名変更届」	デ工研究科窓口
	「保証人変更届」	
	「休学願」	
	「退学願」	
	「復学願」・「復籍願」	
証明書	「学生証再交付願」	
	通学定期券発行控の使い切り	
	「通学証明書」	
	証明書（和文・英文）	
	「学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）」	
就職	就職相談	キャリアセンター 市ヶ谷事務課(※市ヶ谷本校地)
生活	落とし物	デ工研究科窓口
	盗難	デ工研究科窓口
	アルバイト紹介	学生センター(※市ヶ谷本校地)
	下宿紹介	学生センター(※市ヶ谷本校地)
	奨学金	学生センター(※市ヶ谷本校地)
	傷病	診療所(※市ヶ谷本校地)
	学生傷害保険関係	学生センター(※市ヶ谷本校地)
	契約宿舍ゼミ利用における宿泊料補助	外濠校舎 6 階 エイチ・ユー
	石岡総合体育館施設の申し込み	80 年館受付(※市ヶ谷本校地)

5. デザイン工学研究科 窓口取扱時間

平日 10:00～11:30, 12:30～16:00,

土曜・日曜・祝日は閉室

※デザイン工学研究科以外の窓口は各 HP 等にて確認すること。時期によって開室時間が異なる場合がある。

6. 事務上の諸手続

(1) 学生証番号

研究科各専攻の学生個々に 7 桁の番号が付され、この番号は在籍中変更されない。番号は学生証に明示され、受講科目の登録、その他諸手続の際に氏名と併用して使用する。

(2) 学生証

- a. 学生は常時学生証を携帯し、本学教職員が開示を求めた場合には必ず提示すること。
- b. 2年次以降は新年度用の裏面シールのみ、毎年4月に交付するので貼りかえること。
- c. 課程修了、退学、除籍のときは、直ちに返却すること。
- d. 紛失した場合にはデザイン工学研究科窓口へ届出、再交付を受けること。再交付料は2,000円とする。

(3) 健康診断

毎学年度初めに実施される健康診断を受けること。詳細は、WEB掲示板等で案内する。

(4) 学費

入学金、授業料その他学費に関しては学則第9章によるが、納付期限ならびに標準修業年限を超えた者及び休学者については次のとおりとする。

- a. 授業料は、原則として春学期分は4月末まで、秋学期分は9月末までに納入すること。
- b. 標準修業年限を超えて在学する者の学費
修士、博士後期課程ともに以下の授業料および教育充実費が適用される。
 - ①「論文と科目が未修得」の場合
当該者の入学年度に定められた授業料および教育充実費の2分の1
 - ②「論文のみ未修得」または「論文に合格したが科目1科目以内（2単位科目は0.5科目とする）未修得の者」の場合
当該者の入学年度に定められた授業料および教育充実費の4分の1
また、上記①②の学費の他に実験実習費が加わる。
なお、当該年度の学費は年度の始めに決定するため、春学期末をもって修業年限に達した場合でも、秋学期学費の上記減額措置は適用されない。
9月に博士学位を授与され修了する場合には、秋学期分の授業料は徴収しない。
- c. 休学を許可された者の費用
休学在籍料（年間休学：10万円、春学期または秋学期のみ休学：5万円）を納入する。
※休学該当期間の授業料、実験実習料及び教育充実費の納入を要しない。また、年間休学を許可された者は原則として諸会費の納入を要しない。

(5) 諸届・願出様式

項目を届出あるいは願い出の場合には所定書式又は申請方法を用いて手続きすること。

提出先は特に指定がない限りはデザイン工学研究科窓口とする。

a. 氏名変更届	変更が生じた場合には住民票を添付し、直ちに届出ること。
b. 住所変更	情報システムより申請すること。
c. 在学継続届	博士後期課程在学者で、4年目以降在学する場合には必ず届出ること。
d. 修了後の進路先届	修了後の進路が決定した場合には必ず「キャリアセンター市ヶ谷事務課」に所定の書式にて届出ること。
e. 休学届	年間休学・春学期休学 5月末日まで受付 秋学期休学 10月末日まで受付

f. 退学届	学費前期分未納者 5月末日まで受付 学費後期分未納者 10月末日まで受付 所定用紙に記入し、学生証を添えて提出のこと。
g. 復学願	退学したものが復学を希望する場合、願出書提出後、研究科教授会の議を経て復学を許可されることがある。 希望者はデザイン工学研究科担当窓口まで申し出ること。 再入学金 10万円（他校出身者のみ）
h. 復籍願	授業料未納によって除籍されたものが復籍を希望する場合、願出書提出後、研究科教授会の議を経て復籍を許可されることがある。 希望者はデザイン工学研究科担当窓口まで申し出ること。 再入学金 10万円（他校出身者のみ）

(6) 証明書発行

各種証明書の発行は、田町校舎エントランス又は各校舎に設置されている証明書自動発行機で取得すること。

証明書手数料（和文・英文とも） 1通につき 200円

※稼働時間は大学HPで確認すること。

(7) 学割・教室借用

a. 学割

学生旅客運賃割引証を必要とするときは、証明書自動発行機で修得することができる。

ただし、科目等履修生は、利用できない。

b. 教室借用手続

教室を使用したい場合は、窓口申し出ること。ただし、授業に支障のない場合に限る。

(8) 大判スキャナー利用について

大判スキャナー利用については、事前に2階事務室で所定の手続きを行うこと。

VI. 資格科目の履修について

図書館司書・学校図書館司書教諭・社会教育主事・博物館学芸員

上記の資格の修得を希望する場合は、キャリアデザイン学部主催科目を、キャリアデザイン学部教授会承認を得たうえで、学部聴講で履修することになる。学部聴講に際し、年間履修上限は24単位であり、受講料が別途必要となる。自研究科授業の履修に支障を来さないよう十分に留意すること。詳細はデザイン工学研究科担当に確認すること。

※専修教育職員免許状について

建築学専攻と都市環境デザイン工学専攻の2016年度以降入学者は、「専修免許状（工業）」は修得できない。
システムデザイン専攻の2019年度以降入学者は、「専修免許状（情報）」は修得できない。

Ⅶ. 奨学金・研究助成制度・留学制度・グローバル教育の推進・首都大学院コンソーシアム・障がい学生支援

1. 奨学金（※休学者は出願できない）

随時更新されるため、最新情報は必ず問合せ先の HP を確認のこと。

（1）法政大学 100 周年記念大学院修士課程奨学金

法政大学は、創立 100 周年を記念して、1984 年度より特別奨学金制度を設けている。募集は法政大学大学院奨学金と同時に行う。2022 年度の採用実績は 27 名、給付額は年額 20 万円（ただし、長期履修制度適用者の給付額は、通常授業料との比率により減額されます。また、私費外国人留学生授業料減免対象者は、減額相当額を給付額から減額します。）。詳細は「法政大学 100 周年記念大学院特別奨学金給付規程」を参照。

（2）日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構奨学金の貸与希望者には、毎年その年度の枠内で選考の上採用している。

出願資格は、大学院研究科の修士・博士後期課程在学者。

詳細は、学生センター厚生課まで問い合わせること。

① 貸与月額

● 第一種（無利子）（2022 年度）

修士課程（1 ～ 2 年生） 50,000 円， 88,000 円のどちらかを選択

博士後期課程（1 ～ 3 年生） 80,000 円， 122,000 円のどちらかを選択

● 第二種（有利子）（2022 年度）

修士課程・博士後期課程の全学年とも、月額 50,000 円， 80,000 円， 100,000 円， 130,000 円， 150,000 円の中から、希望する金額を選択できる。

② 成績優秀者返還免除について

大学院において日本学生支援機構第一種奨学金の貸与を受けた学生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合は、貸与を受けた奨学金の返還について一定額の免除を受けることができる。詳細は 12 月頃に掲載予定。

③ 修士課程進学予定者の返還免除内定制度

上記②、「成績優秀者返還免除」について、修士課程進学時に返還免除を内定する制度である。返還免除内定者となった場合も、貸与期間中に奨学金の交付の「警告」「停止」「廃止」処置を受けた場合や、修業年限内で課程を修了できる見込みがないと判断された場合は、内定者の身分が取り消されるので注意すること。

<研究成果報告書の提出について 上記（1）（2）>

奨学金の採用者は、年度末に指導教員（指導教員が決定していない場合は専攻主任）に研究成果報告書を提出する義務がある。提出先・提出期限等の詳細は、採用決定者に別途通知する。

（3）その他、地方公共団体・民間奨学団体奨学金について

本学に募集が届き次第、随時、大学院ホームページ、web 掲示板に掲載するので、希望者は、指定された日時までに手続きをとること。

各種奨学金を受給する場合、各団体で定められたレポート、報告書等の提出、会合への出席等の義務を必ず果たすこと。

(4) 日本学術振興会特別研究員について

日本学術振興会では博士課程在学者、修了者等で優れた研究能力を有し、大学で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する。制度の詳細は、日本学術振興会 HP 参照。
(<http://www.jsps.go.jp/>)

特別研究員申請に関するセミナーを毎年4月上旬に開催している。(日時は大学院 HP 上で周知する) 特別研究員に関心のある方は参加すること。

<問合せ先>

(1) (2) …学生センター厚生課 (外濠校舎 1F) TEL : 03-3264-9488

窓口時間 : 月～金 9 : 00～11 : 30, 12 : 30～17 : 00 土 9 : 00～12 : 00

※時期により土は閉室となることがあります。

(3) …大学院課 (大学院棟 1F)

(4) …研究開発センター (新見附校舎 1F) TEL : 03-5228-1244

窓口時間 : 月～金 9 : 00～11 : 30, 12 : 30～17 : 00

2. 研究助成金

大学院においては、以下のような研究助成金がある。随時更新されるため、最新情報は必ず HP を確認のこと。なお、在学向けの補助金に休学者は出願できない。

(1) 法政大学博士後期課程研究助成金

博士後期課程に在籍する大学院生に対し、学術研究を奨励し、高度の研究能力と豊かな学識を有する研究者を育成するための経済的支援制度。

支給額は、年額 48 万円 (理系)。応募資格等の詳細、申請については募集要項を参照。

申請期間は 9 月下旬を予定。

(2) 大学院学生海外留学補助金

「大学院学生海外留学補助金規程」により海外に留学をする院生に対し、補助金を給付する制度。

後述の「7. 留学制度について (1)」を参照すること。

(3) 大学院学会等発表補助金

大学院における学術研究の高度化・国際化を奨励するため、国内・国外で開催される学会等に係る経費の一部を補助する制度。本大学院の修士課程または博士後期課程に在籍する学生が、国内外の学術機関が主催する学会、研究会、ワークショップ等 (オンライン含) で行う研究発表に要した経費 (交通費、宿泊費、学会発表参加費 (年会費除く)、海外旅行保険料等) を助成する。詳細は大学院 HP に掲載の「募集要項」で確認すること。

(4) 大学院現地調査実施費用補助

大学院における学術研究の高度化・国際化を奨励するため、国内・国外での現地調査に係る経費の一部を補助する制度。本大学院の博士後期課程に在籍する学生を対象とする。詳細は、当研究科 HP に掲載の「募集要項」で確認すること。

(5) 優秀博士論文出版助成金

大学院における高度な学術研究を奨励し、その優れた研究成果を積極的に公表するため、博士論文を出版する際の経費を一部助成する制度。

本学大学院博士後期課程を修了し博士学位を修得した方または課程によらない論文博士の方でいずれも学位修得後 5 年以内の方が応募対象。年度ごとで 6 人（全研究科・専攻）まで採用，1 人につき 100 万円を上限として実費支給。応募書類の提出は 3 月上旬（予定）。

(6) 諸外国語による論文等校閲補助制度

大学院における学術研究の高度化，国際化を奨励するため，在籍する大学院生が自ら執筆した母語以外の諸外国語による論文やレポートにつき専門家・業者の校閲を必要とする場合の経費の一部を補助する制度。

補助対象は国内外の学会等で発表する論文およびその要旨，修士論文およびその要旨，編著単行本掲載論文，雑誌投稿等，研究発表上必要な論文およびその要旨，その他，本大学院が適当と認める論文等とする。校閲に要した経費について，1 人 1 件あたり 10 万円を上限として実費支給する。

申請回数は当該年度 1 回まで。ただし希望者多数の場合には，1 人あたりの補助金額を減額する場合がある。申請期間は 2 月下旬頃。

(7) 学生論文掲載料等補助

大学院における学術研究の高度化，国際化を推奨するため，学術誌へ論文を掲載する際、必要となる論文掲載料の経費を補助する制度。対象者は、修士課程または博士後期課程の大学院生とする。

補助の対象は、当該論文の掲載に係る投稿料，掲載料，オープンアクセス料，別刷代の経費とし，1 件あたり 20 万円を上限に実費支給。なお，外国語の翻訳や校正に係る経費は対象外とし，また共著論文については本人がファーストオーサーまたはコレスポンスオーサーの場合に限り補助対象とする。

申請回数は当該年度 1 回（1 件）。希望多数の場合は 1 人あたりの補助金額を減額する場合がある。申請期限は 2 月中旬を予定。

3. チューター制度（外国人留学生対象）

上級生をチューター役として採用し，非正規生を含む下級生に対して大学院生活全般の指導にあたる。指導範囲は大学院授業で課されるレポートの助言・添削，学位論文，その他研究上の助言，大学院生活適応に関する助言，相談，学習上の助言，相談，その他，大学が研究遂行上，適切と認める指導，助言。

詳細は大学院 HP の募集要項で確認のこと。

4. 教育訓練給付制度

以下の専攻の修士課程については、「教育訓練給付制度一般教育訓練給付」の指定を受けている。この制度は、勤労者（離職者も含む）に対し，厚生労働大臣が指定した講座における教育訓練に要した費用の一部を補助するものである。（<http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/kyouiku/>）

本人が修了後に住民票のある住所地のハローワーク（公共職業安定所）へ申請することにより，教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の 20%相当額（上限 10 万円）の教育訓練給付金が支給される。申請は，修了日（3 月 24 日または 9 月 15 日）の翌日から起算して1 カ月以内。入学年度により支給条件が異なるためハローワーク発行のリーフレットで参照のこと。

この制度は，デザイン工学研究科の全専攻に適用される。

ただし，転研究科・転専攻した方はすべて対象外。

受給資格のための照会票は随時、デザイン工学研究科窓口で配付。

支給申請に必要な書類のうち、以下の 3 点については、修了生発表日以降に申請すること。

- 教育訓練給付金支給申請書
- 教育訓練修了証明書
- 領収書

5. ゼミで契約宿舎を利用する場合の宿泊費補助

法政大学生活協同組合が「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設をゼミ合宿で利用した場合に、宿泊料補助を行っている。詳細は、以下の大学 HP にて掲載。

HOME > 学生生活・スポーツ > 学生生活サポート > ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/>

6. 留学制度について

(1) 「大学院学生海外留学補助金規程」に基づく留学について

本学大学院生で、指導教員の推薦を受けた者は応募することができる（ただし、休学中の者、国費外国人留学生、派遣海外留学・認定海外留学に関する規程による奨学金の受給者は除く）。対象となる留学先は、外国の大学院の正規課程とし、当該国における正規の高等教育機関であり、かつ学位授与権を有するものとする。補助金額は留学期間に応じ 1 年間で上限 200 万円、6 ヶ月で上限 100 万円。採用者数は若干名。留学した大学等において履修した科目のうち、研究科が適当と認めたものについては、本学大学院の課程修了に必要な単位（上限 15 単位）として認定されることがある。詳細は大学院 HP で確認すること。

(2) 法政大学派遣留学生制度について

学業成績が優秀で高い外国語能力を持ち、かつ留学への強い意志を持った学生を本学の海外協定大学へ派遣する制度。詳細はグローバル教育センターHPを参照。

7. グローバル教育の推進について

法政大学では早くから学生の海外留学や外国人留学生の受入れを行い、大学教育のグローバル化を進めてきた。2014 年度には文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、グローバル教育の更なる拡充を推し進めている。以下に、グローバル教育センターが提供する主なプログラムを紹介する。

(1) ERP（英語強化プログラム）

ERP（英語強化プログラム）は、グローバル教育センターが提供するネイティブスピーカーを中心とした講師による英語スキルの要請とその統合を目的としたプログラム。将来、海外留学や国際的な企業・機関への就職を検討している方に受講をすすめる。なお、大学院では、単位認定の制度はない（単位として認められない）。詳細は、後述のグローバル教育センターHPを参照。

(2) G ラウンジ

G ラウンジは外国語コミュニケーション空間として、市ヶ谷(大内山校舎 2 階)、多摩(総合棟地下 1 階)、小金井(管理棟 4 階)の 3 キャンパスに設けられている。G ラウンジでは英語学習アドバイザーなどネイティブスピーカーとの日常的なコミュニケーションの機会を持つことができ、実践的な学力を身に付けることができる。英語で話したい、英語の

上達方法を教わりたい、海外の文化を知りたいなど、学生の様々な希望に対応する。また G ラウンジは ERP や国際交流ボランティア・インターンシップなどの窓口にもなっており、スタッフが常駐して問い合わせや相談に応じる。

(3) 国際インターンシッププログラム

海外での様々な体験を通して、世界を違う視点でから見ることで、グローバル人材に求められる国際感覚や様々な能力を身に付けるのが、国際インターンシッププログラム。国際インターンシップでは、派遣先での就業体験を通じて、グローバル化社会に対応した働き方や文化の違いを学ぶ。将来的にはグローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげていく。

(4) 国際キャリア支援プログラム

将来、海外の企業や国際機関で働きたいと考えている学生を支援するプログラム。漠然と海外への憧れを抱いている学生に対する動機づけや、実際に海外機関への就職を考えている学生への支援を行う。実際に就職を考えていなくても国際協力に関する課題や海外の職場で働く際のやりがいなどについても学ぶことができるプログラムを用意している。講演会やセミナーを行い、在学生に対してグローバル企業や国際機関で働くことを考えるきっかけを提供する。

(5) グローバル・ポイント制度

「グローバル・ポイント制度」は、留学や語学研修など大学が指定する対象プログラムへの参加についてポイントを付与することで、学生自身がそれぞれの活動状況を把握し、今後の学習に役立てることを目的として実施している。詳細は、グローバル教育センターHP の「イベント」に掲載する。

グローバル教育センターHP <https://www.global.hosei.ac.jp>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/hosei.university.global>



グローバル教育センター事務局

グローバル教育センター事務局には3つの課があり、「国際交流課」と「国際支援課」では、海外の大学・研究機関との研究者の受け入れ・派遣、外国人留学生の受け入れ、本学学生の海外派遣、海外の大学生のためのセミナー開講、海外の大学からの交換留学生の受け入れなどを行っている。また、「スタディ・アプロード (SA) プログラムを実施する学部と連携を取りながら、渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に、SAに参加する学生をサポートしている。「グローバルラーニング課」では世界を舞台に活躍する人材を育成するための様々な取り組みを行っている。

	場所	開室時間	問合せ先
国際交流課	市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 2F	[月～金]9:00～11:30,	TEL:03-3264-9315
国際支援課		12:30～17:00	TEL:03-3264-5475
グローバルラーニング課		[土] 9:00～12:00	TEL:03-3264-4088
G ラウンジ		[月～金]9:00～17:00	TEL:03-3264-4502
多摩グローバル担当	多摩キャンパス 総合棟 B1F	[月～金]9:00～11:30,	TEL:042-783-2130
多摩 G ラウンジ		12:30～17:00	TEL:042-783-3018
		[月～金]9:00～11:30,	
		12:30～17:00	

8. 「首都大学院コンソーシアム」について

首都圏の大学院間で締結された協定により、自分が所属する大学院以外の授業を聴講もしくは研究指導が受けられる制度である。協定により聴講する学生（協定聴講生）が、受け入れ先大学院において修得した単位は本研究科の修了要件単位として単位認定される（上限あり）。この制度により協定先大学院での受講を希望する者は、デザイン工学研究科担当まで申し出ること。（協定校及び詳細については大学院 HP を参照のこと。）

9. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、支援を必要とする学生、支援してくれる学生それぞれの窓口で、障がいのある学生がその他の学生と同じレベルで授業を受講できるようにするための授業支援を中心に、障がいのある学生が社会へ出るための自立をサポートし、障がいのある学生と支援学生の双方が成長できるコミュニティ作りを目指している。

授業支援を中心とした支援室の活動は、その多くが障がい学生サポートスタッフによって支えられています。サポートスタッフは、ノートテイク講座など必要な講座を受講した後に支援室へスタッフとして登録し、サポートが必要な学生の授業へ派遣されている。また、専門のスキルを持ったコーディネーターが学生に寄り添った支援を行っている。

10. 環境への取り組み

本学は、2017年度より「法政大学環境マネジメントシステム」を構築し、学生の主体的な参画の拡大を目指して、キャンパスにおける環境教育・研究の推進、あらゆる事業による環境負荷の軽減に向けて取り組んでいる。

詳細は、環境センターホームページを参照のこと。<https://www.hosei.ac.jp/kankyokenshou/>



2023年度デザイン工学研究科 修士課程、博士後期課程学生指導教員

専攻	教員氏名	修士課程	博士後期課程
建築学	赤松 佳珠子	○	○
	網野 禎昭	○	○
	安藤 直見	○	○
	岩佐 明彦	○	○
	川久保 俊	○	○
	小堀 哲夫	○	
	山道 拓人	○	
	下吹越 武人	○	○
	高村 雅彦	○	○
	中野 淳太	○	○
	浜田 英明	○	○
	宮田 雄二郎	○	○
	都市環境デザイン工学	今井 龍一	○
内田 大介		○	○
酒井 久和		○	○
鈴木 善晴		○	○
高見 公雄		○	○
福井 恒明		○	○
溝渕 利明		○	○
道奥 康治		○	○
山本 佳士		○	○
システムデザイン		安積 伸	○
	岩月 正見	○	○
	大西 景太	○	○
	姜 理恵	○	○
	SEONG Young ah	○	○
	田中 豊	○	○
	土屋 雅人	○	○
	西岡 靖之	○	○
	野々部 宏司	○	○
	山田 泰之	○	

Ⅷ. デザイン工学研究科履修案内

建築学専攻

1. 目標

- < 1 > 総合デザイン（Holistic Design）を理解し実践する能力
- < 2 > 歴史・文化と建築が不可分であることを理解する素養
- < 3 > 持続可能な地球と社会の実現を図るグローバルな職業倫理
- < 4 > 安心な生活・安全な構造・快適な環境を実現する専門技術力
- < 5 > 技術発展と芸術創造に関する相補的で均衡ある理解
- < 6 > 企画・設計作業に必要な高度なIT能力
- < 7 > アイデアを論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力

2. 修士課程授業科目一覧

共通基盤科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築計画学概論 Introduction to Architectural Planning	1		2	
近現代デザイン概論 Introduction to Modern Form Design	1		2	
環境工学概論 Introduction to Environmental Engineering	1		2	
景観デザイン概論 Introduction to Landscape Design	1		2	
地域・都市再生概論 Introduction to Regional and Urban Renewal	1		2	
環境技術英語 Technical English Presentation	1		2	
知的財産権論 Theory of Intellectual Property Rights	1		2	
現代産業論 Analysis of Modern & Innovative Industry	1		2	
プレゼンテーション技法 Presentation Methods	1		2	2023年度以降入学者
国際研修プログラム International Workshop Program	1		3	CD期集中科目として履修登録
海外研修プログラム International Exchange Program	1		3	CD期集中科目として履修登録 休講

基盤科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
設備計画概論 Introduction to Equipment Planning	1		2	休講
建築史概論 History of Architecture	1		2	
地震工学概論 Earthquake Engineering	1		2	
鉄筋コンクリート構造概論 Reinforced Concrete Structures	1		2	

専門科目

(キャリア3年コースの配当年次は2年から)

授業科目	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
木造建築生産特論 Advanced Seminar on Timber Construction	1		2	2023年度以降入学者。 休講
デジタルエンジニアリング特論 Advanced Digital Engineering	1		2	2023年度以降入学者
構造解析特論 Structural Analysis	1		2	
特殊環境特論 Theory of Peculiar Environments	1		2	
環境計測・評価特論 Environmental Measurement and Assessment	1		2	2023年度以降入学者
都市解読方法特論 Method of Urban Historical Study	1		2	
建築設計特論 Architectural Design Theory	1		2	
建築思潮特論 Theory and Design of Modern Architecture	1		2	
空間解析特論 Analysis of Spatial Images	1		2	
住宅計画特論 Housing Programs	1		2	
都市形成史特論 Theory of Urban Formation	1		2	
特別研究 Special Research	1		2	休講

専門科目（学部合併科目） ※キャリア3年コースのみ

※デザインスタジオ1～6のうちの2科目を含む8単位以上（ただし、修了要件としての認定は15単位を上限とする）

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築法規（建築） Building Law	1		2	
建築材料 Architectural Materials	1		2	
施工管理 Construction management	1		2	
部材の力学 Mechanics of Structural Members	1		2	
材料の力学 Mechanics of Materials	1		2	
西洋建築史 History of Western Architecture	1		2	
都市建築史 Urban and Architectural History	1		2	
日本建築史 History of Japanese Architecture	1		2	
都市建築史スタジオ Urban and Architectural History Studio	1		3	
建築のしくみ Architectonics	1		2	
デザインスタジオ1 Architectural Design Studio 1	1		3	2022年度以降入学者
デザインスタジオ2 Architectural Design Studio 2	1		3	2022年度以降入学者
デザインスタジオ3 Architectural Design Studio 3	1		3	
デザインスタジオ4 Architectural Design Studio 4	1		3	
デザインスタジオ5 Architectural Design Studio 5	1		3	2022年度以降入学者
デザインスタジオ6 Architectural Design Studio 6	1		3	2022年度以降入学者
構法スタジオ1 Building Construction Studio 1	1		2	2022年度以降入学者
建築計画1 Fundamentals of Architectural Design 1	1		2	2022年度以降入学者
建築計画2 Fundamentals of Architectural Design 2	1		2	2022年度以降入学者
建築デザイン論1 Architectural Design Theory 1	1		2	
建築デザイン論2 Architectural Design Theory 2	1		2	
Design Basics in English	1		2	
文明と資源 Sustainable Natural Resource Management in Civilizations	1		2	
設備入門 Introduction to Equipment	1		2	2022年度以降入学者
サステナブルデザイン Design for Sustainable Buildings	1		2	2023年度以降入学者 休講

光・視環境 Lighting and Visual Environments	1		2	
空間の構造デザイン Structural Design for Space	1		2	2022 年度以降入学者

スタジオ科目 (キャリア 3 年コースの配当年次は 2 年～《但し「デザインスタジオ 11」のみ 3 年》)

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
デザインスタジオ 8 Architectural Design Studio 8	1	スタ 6	ラボ 6	※スタジオ系学生はこの 4 科目のうちデザインスタジオ 11 を含む 3 科目選択必修
デザインスタジオ 9 Architectural Design Studio 9	1	スタ 6	ラボ 6	
デザインスタジオ 10 Architectural Design Studio 10	1	スタ 6	ラボ 6	
デザインスタジオ 11 Architectural Design Studio 11	2	スタ 6	ラボ 6	
デザインスタジオ X Architectural Design Studio X	1		2	※履修登録は D 期集中科目として登録して下さい。
建築プロフェッショナル総合演習 1 Practical Studies for Architectural Profession 1	1		4	
建築プロフェッショナル総合演習 2 Practical Studies for Architectural Profession 2	1		4	
建築インターンシップ Architecture Internship Program	1		8	※履修登録は D 期集中科目として登録して下さい。
建築構造デザイン Advanced Structural Design	1		4	
修士設計※履修登録上は「修士論文（建築）」を選択してください	2	0		

プロジェクト科目 ※ラボ系学生のみ必修（スタジオ系学生は選択できません。）

（キャリア 3 年コースの配当年次は「1」は 2 年, 「2」は 3 年）

授業科目	推奨配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築学修士研修 1 Training of Architectural Studies for Master's Program 1	1	ラボ 2	-	
建築学修士研修 2 Training of Architectural Studies for Master's Program 2	2	ラボ 2	-	
建築学修士プロジェクト 1 Architectural Studies Project for Master's Program 1	1	ラボ 3	-	
建築学修士プロジェクト 2 Architectural Studies Project for Master's Program 2	2	ラボ 3	-	※修士論文（建築）と合わせて履修登録してください。
修士論文（建築） Master's Thesis	2	0	-	

◎ 留学などで、推奨配当年次に履修できない場合は、指導教員に相談して下さい。

◎ 本学出身者で学部時代に大学院科目を履修し、なおかつ大学院の修了単位としたい場合は必ず修了認定申請を提出すること。

3. 博士後期課程授業科目一覧

専門科目

授業科目	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築構造分野研究論考 Research of Structures in Architectural Engineering	1		2	
建築環境分野研究論考 Research of Architectural Environment	1		2	
建築計画分野研究論考 Research of Architectural Planning	1		2	
建築史分野研究論考 Research of Architectural History	1		2	

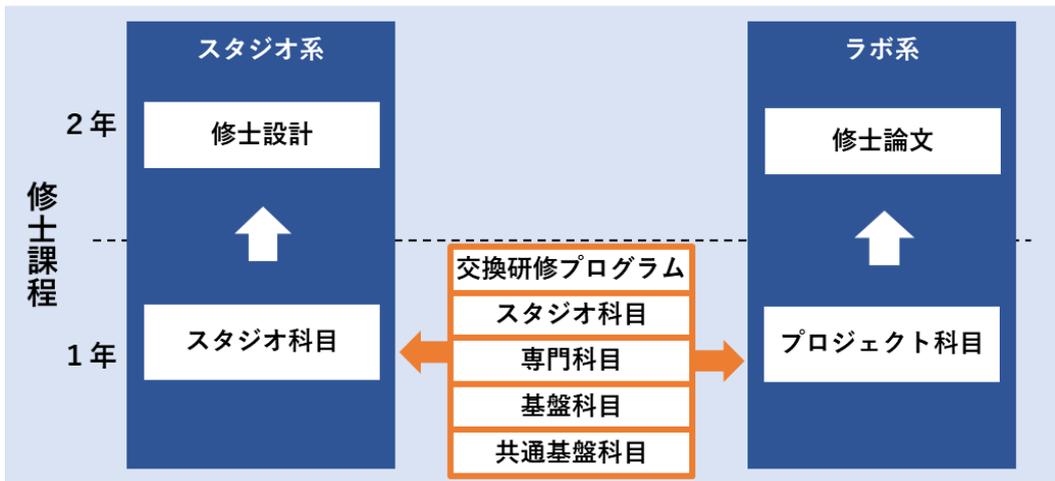
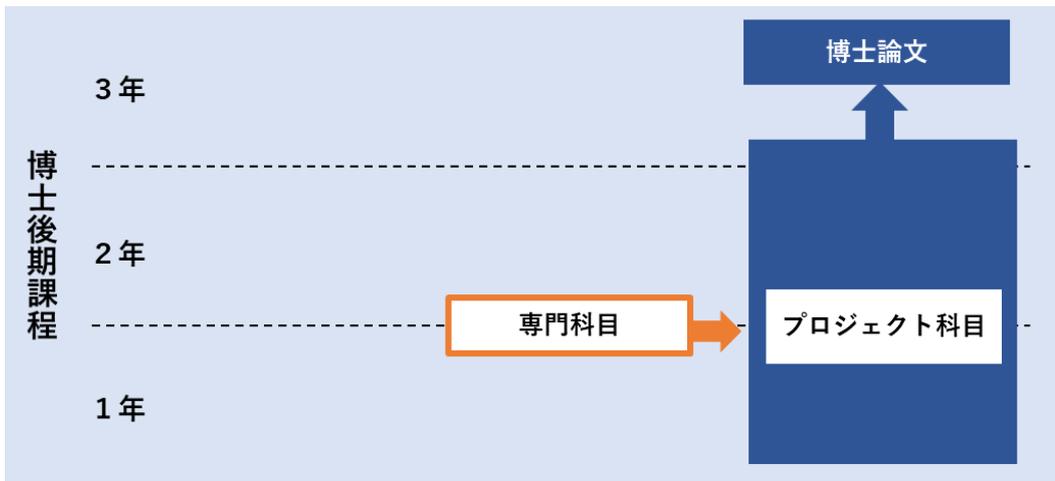
プロジェクト科目

授業科目	推奨配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築学博士研修 1 Training of Architectural Studies for Doctor's Program 1	1	2		
建築学博士研修 2 Training of Architectural Studies for Doctor's Program 2	2	2		
建築学博士研修 3 Training of Architectural Studies for Doctor's Program 3	3	3		
建築学博士プロジェクト 1 Architectural Studies Project for Doctor's Program 1	1	2		
建築学博士プロジェクト 2 Architectural Studies Project for Doctor's Program 2	2	2		
建築学博士プロジェクト 3 Architectural Studies Project for Doctor's Program 3	3	3		

◎ 留学などで推奨配当年次に履修できない場合は、指導教員に相談してください。

4. カリキュラムツリー

建築学専攻 カリキュラムツリー



5. 専任教員と専門分野（2023年4月1日現在）

建築デザイン	赤松 佳珠子 教授	建築設計・都市計画：建築・空間デザイン研究室
	安藤 直見 教授	建築計画：建築空間研究室
	岩佐 明彦 教授	建築計画学・建築計画学研究室
	小堀 哲夫 教授	建築設計・都市環境デザイン：建築設計・都市環境研究室
	下吹越 武人 教授	建築設計・都市環境デザイン：建築・都市空間研究室
	山道 拓人 准教授	建築設計：建築計画・都市環境デザイン ：建築意匠・ソーシャルテクニクスデザイン研究室
建築・都市史	高村 雅彦 教授	建築史・都市史：歴史・意匠研究室
建築構造	浜田 英明 教授	建築構造：建築構造計画研究室
	宮田 雄二郎 准教授	建築構造：建築構造工学研究室
建築環境	川久保 俊 教授	建築・都市環境：建築・都市環境研究室
	中野 淳太 教授	建築環境：建築環境・建築設備
建築構法	網野 禎昭 教授	建築構法：建築構法研究室

※各教員の専門分野・研究業績等については下記を参照してください。

法政大学学術研究データベース <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

※〈兼任教員〉授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

6. <建築学専攻修士課程総合2年コース> 建築士試験にかかる大学院課程の実務経験認定

※**キャリア3年コース生は対象とならないので注意すること**

建築学専攻修士課程における下表のインターンシップ及びインターンシップ関連科目は、建築士法第14条及び第15条に規定する建築実務に該当する。

実務経験年数は単位の修得数により、下記のとおりとなります。

30単位：2年，15単位：1年とみなします。

科目分類	科目名	単位	認定できる単位数の上限
学外インターンシップ	建築インターンシップ (※修得すればカウントする)	8	8
学内インターンシップ	デザインスタジオ8 (X)	6	18
	デザインスタジオ8 (Y)	6	
	デザインスタジオ8 (Z)	6	
	デザインスタジオ9 (X)	6	
	デザインスタジオ9 (Y)	6	
	デザインスタジオ9 (Z)	6	
	デザインスタジオ10 (X)	6	
	デザインスタジオ10 (Y)	6	
	デザインスタジオ10 (Z)	6	
	デザインスタジオ11 (X)	6	
小計：インターンシップ (学外+学内)			26
インターンシップ関連科目 (演習・実験・実習)	建築プロフェッショナル総合演習1	4	4
	建築プロフェッショナル総合演習2	4	
	建築構造デザイン	4	4
小計：インターンシップ関連科目			8
総計：インターンシップ及びインターンシップ関連科目			30

7. <建築学専攻修士課程キャリア3年コース> 建築士資格取得について

(2009年度以降入学者用)

※2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、2020年度建築士試験より受験資格が変更となる可能性があります。詳細は公益財団法人建築技術教育普及センターのHPを参照ください。
(https://www.jaenic.or.jp/other_info/2018kaisei.html)

1 級

修業年限	A (4年制)		
分類			
①建築設計製図	7 単位		
②建築計画	7 単位		
③建築環境工学	2 単位		
④建築設備	2 単位		
⑤構造力学	4 単位		
⑥建築一般構造	3 単位		
⑦建築材料	2 単位		
⑧建築生産	2 単位		
⑨建築法規	1 単位		
①～⑨の計(a)	30 単位		
⑩複合・関連科目(b)	適宜		
(a)+(b)	60 単位	50 単位	40 単位
受験資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 0 年		
免許登録資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 2 年	卒業後 3 年	卒業後 4 年

二級・木造

修業年限	大学、短期大学、高等専門学校、職業能力開発総合大学校、職業能力開発大学校、職業能力開発短期大学校		
分類			
①建築設計製図	3 単位		
②建築計画			
③建築環境工学	2 単位		
④建築設備			
⑤構造力学			
⑥建築一般構造	3 単位		
⑦建築材料			
⑧建築生産	1 単位		
⑨建築法規	1 単位		
①～⑨の計(a)	10 単位		
⑩複合・関連科目(b)	適宜		
(a)+(b)	40 単位	30 単位	20 単位
受験資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 0 年		
免許登録資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 0 年	卒業後 1 年	卒業後 2 年

財団法人建築技術教育普及センターより

【重要】

一級建築士の場合

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位を充足し、かつ、①～⑨と⑩の合計数が40単位以上の場合、卒業後すぐに試験を受験できます。

試験を合格した場合に、免許登録に当たっては①～⑨と⑩の合計数に応じ下記の年数が必要です。

40 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「4 年」

50 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「3 年」

60 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2 年」

二級・木造建築士の場合

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位を充足し、かつ、①～⑨と⑩の合計数が20単位以上の場合、卒業後すぐに試験を受験できます。

試験を合格した場合に、免許登録に当たっては①～⑨と⑩の合計数に応じ下記の年数が必要です。

20 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2 年」

30 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「1 年」

40 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「0 年」

なお、二級・木造の場合は分野が一級に比べて、大分類化されています。

※本履修ガイド巻末に科目チェックシートがありますので、そちらを確認し履修計画を立ててください。

8. 日本技術者教育認定機構（JABEE） ※受審プログラム

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻は、2013 年度にデザイン工学部建築学科と共に日本技術者教育認定機構（JABEE）から教育プログラムの認定を受けました。

< 1 > 受審プログラムの区分：建築系学士修士課程 建築設計・計画系分野

< 2 > 受審プログラムの名称：建築デザインプログラム

本学建築学科を修了した者は、プログラムの履修を希望し、修士課程修了時に本項 3 の修了要件を満足していれば、建築学専攻より認定証が発行される。

他大学から入学した者は、まずプログラム履修について一定の条件を満たす必要がある。詳しくはガイダンスおよびプログラム履修希望者面談時に確認すること。

< 3 > 受審プログラム修了要件

前項（2）の建築学専攻修士課程授業科目の中から 30 単位以上を修得していること。

前項（6）に定めるインターンシップ及びインターンシップ関連科目の中からデザインスタジオ 8～10（各 6 単位）の 1 科目以上を含む 15 単位以上を修得していること。

一級建築士の受験資格要件に定められた指定科目を修めていること。

なお、JABEE が認定する修士課程における実務経験年数は前項（6）に従う。以上に関する詳細および認定証の効力についてはガイダンス時に説明する。

※JABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education）：技術系学会と連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体

9. 修士論文賞・修士設計賞

修士課程の修了要件としてラボ系には修士論文、スタジオ系には修士設計が課され、課程の最終成果として提出される。この中から特に優れたものを選考し、これらに修士論文賞（各部門）と修士設計賞を授与する。修士設計賞受賞作品は公開発表の催しである大江賞審査会に対し出展作としてノミネートされる。詳細はガイダンス時に確認すること。

都市環境デザイン工学専攻

1. 目標

< 1 > 社会に通用する確かな「知識と見識」、ならびに国際社会の一員としての「コミュニケーション能力」を身につけること

< 2 > 社会基盤などを設計・建設・整備する最先端の手法を習得し、われわれの生活を守るための防災技術ならびに自然生態系との調和を図りながら環境を保全する知恵をもつ技術者を養成すること

< 3 > 指導教員の個別指導のもと、研究や作品制作などを着実に遂行し、論文作成や設計・制作の技術を習得することにより、研究者あるいは高度な専門技術者として自立できる人材を育成すること

2. 修士課程授業科目一覧

共通基盤科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考 1	備考 2
		必修	選択		
建築計画学概論 Introduction to Architectural Planning	1		2		
近現代デザイン概論 Introduction to Modern Form Design	1		2		
環境工学概論 Introduction to Environmental Engineering	1		2		
景観デザイン概論 Introduction to Landscape Design	1		2		※この 3 科目のうち 1 科目以 上を履修
地域・都市再生概論 Introduction to Regional and Urban Renewal	1		2		
環境技術英語 Technical English Presentation	1		2		
知的財産権論 Theory of Intellectual Property Rights	1		2		
現代産業論 Analysis of Modern & Innovative Industry	1		2		
プレゼンテーション技法 Presentation Methods	1		2	2023 年度以降入学者	
国際研修プログラム International Workshop Program	1		3		

-基盤科目（2019年度以降入学者）

授業科目	配当 年次	単位数		備考 1	備考 2
		必修	選択		
都市環境デザイン工学基礎 1 Basics of Civil and Environmental Engineering 1	1		2		※この 4 科目のうち 2 科目以 上を履修
都市環境デザイン工学基礎 2 Basics of Civil and Environmental Engineering 2	1		2		
災害リスクマネジメント概論 Introduction to Disaster Risk Management	1		2		
材料科学概論 Introduction to Material Science	1		2		

専門科目

(キャリア3年コースの配当年次は2年～)

授業科目	配当年次	単位数		備考1	備考2
		必修	選択		
都市交通マネジメント Urban Traffic Management	1		2		※この4科目のうち1科目以上を履修
空間情報デザイン Spatial Information Design	1		2		
比較都市環境デザイン Comparative Urban Environmental Design	1		2		
自然・環境デザイン Natural Environment Design	1		2		
流域水マネジメント River Basin Water Management	1		2		※この5科目のうち1科目以上を履修
水域環境の保全 Conservation of Hydrospheric Environment	1		2	休講	
応用水文学 Advanced Hydrology	1		2		
沿岸防災工学 Coastal Disaster Prevention Engineering	1		2		
地震減災工学 Earthquake Disaster Mitigation Engineering	1		2		
鋼構造の疲労 Fatigue of Steel Structures	1		2		※この6科目のうち1科目以上を履修
社会基盤施設の資産管理 Asset Management of Infrastructure	1		2		
鋼橋の点検・診断・対策技術 Inspection, Diagnosis & Countermeasure Techniques for Steel Bridges	1		2		
複合材料構造解析 Structural Analysis of Composite Materials	1		2		
ライフサイクルエンジニアリング Life Cycle Engineering	1		2		
耐久性力学 Durability Dynamics	1		2		
特別研究 Special Research	1		2	2022年度休講	

専門科目（学部合併科目）※キャリア3年コースのみ

※選択必修科目 8 単位以上を含む計 8 単位以上を履修しなければならない。ただし、修了要件としての認定は計 15 単位を上限とする。

授業科目	配当 年次	単位数		備考 1	備考 2
		必修	選択		
景観とデザイン Architecture for Infrastructure and Environment	1		2		
河川環境工学 River Environmental Engineering	1		2		※選択必修
国土・地域概論 Land Planning	1		2		
コンクリート工学及演習 Concrete Engineering	1		3		
鋼構造学及演習 Design Exercise in Steel Structures	1		3		
RC 構造学及演習 Design Exercise in Reinforced Concrete Structures	1		3		※選択必修
構造力学 2 Structural Mechanics 2	1		2		
都市計画法と政策 City Planning	1		2		※選択必修
交通計画 Transport Planning	1		2		
地盤環境工学 Geoenvironmental Engineering	1		2		
水理学 2 Hydraulics 2	1		2		
水資源工学 Water Resource Engineering	1		2		
デザインスタジオ Design studio	1		3		※選択必修
プロジェクトスタジオ Project Study	1		3		※選択必修
耐震工学 Seismic Engineering	1		2		※選択必修
流域水文学 Watershed Hydrology	1		2		
有限要素法基礎 Elementary Finite Element Method	1		2		
測量学 Surveying and Mapping	1		2		

スタジオ科目

(キャリア 3 年コースの配当年次は 3 年)

授業科目	配当年次	単位数		備考 1	備考 2
		必修	選択		
サステイナブル都市デザイン Sustainable Urban Design	2		2		※この 3 科目のうち 1 科目以上を履修
水環境デザイン Water Environment Design	2		2		
構造解析と設計 Structural Analysis and Design	2		2		

プロジェクト科目

(キャリア 3 年コースの配当年次は「1」「2」は 2 年, 「3」「4」は 3 年)

授業科目	推奨配当年次	単位数		備考 1	備考 2
		必修	選択		
都市環境デザイン工学研究 1 Studies of Civil and Environmental Engineering 1	1	2			
都市環境デザイン工学研究 2 Studies of Civil and Environmental Engineering 2	1	2			
都市環境デザイン工学研究 3 Studies of Civil and Environmental Engineering 3	2	3			
都市環境デザイン工学研究 4 Studies of Civil and Environmental Engineering 4	2	3		※修士論文(都市)と合わせて履修登録すること	
修士論文(都市) Master's Thesis	2	0	—		

◎ 留学などで推奨配当年次に履修できない場合は、指導教員に相談してください。

◎ 本学出身者で学部時代に大学院科目を履修し、なおかつ大学院の修了単位としたい場合は必ず修了単位認定申請を提出すること。

3. 博士後期課程授業科目一覧

専門科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考 1
		必修	選択	
都市プランニング論 Theory of Urban Planning	1		2	
環境システム論 Theory of Environmental System	1		2	
施設デザイン論 Theory of Facilities Design	1		2	

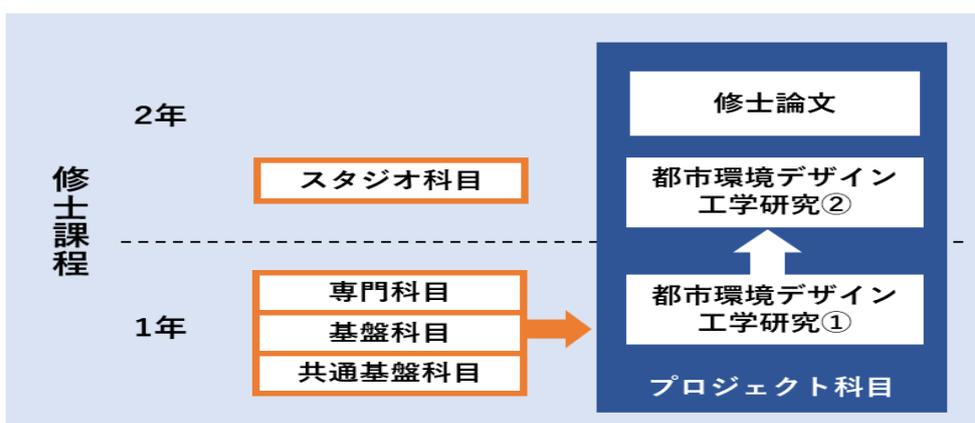
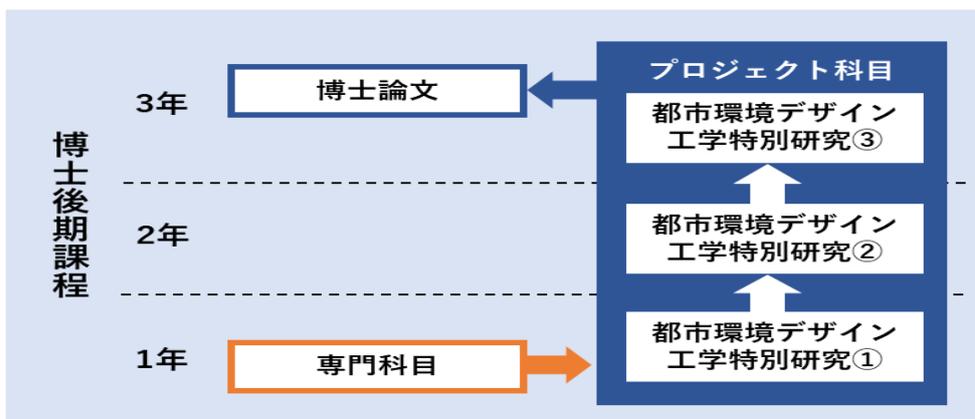
プロジェクト科目

授業科目	推奨 配当 年次	単位数		備考 1
		必修	選択	
都市環境デザイン工学特別研究 1 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 1	1	2		
都市環境デザイン工学特別研究 2 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 2	1	2		
都市環境デザイン工学特別研究 3 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 3	2	2		
都市環境デザイン工学特別研究 4 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 4	2	2		
都市環境デザイン工学特別研究 5 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 5	3	3		
都市環境デザイン工学特別研究 6 Advanced Studies of Civil and Environmental Engineering 6	3	3		

◎ 留学などで推奨配当年次に履修できない場合は、指導教員に相談してください。

4. カリキュラムツリー

都市環境デザイン工学専攻 カリキュラムツリー



5. 専任教員と専門分野（2023年4月1日現在）

都市プランニング系	高見 公雄 教授	都市設計, 都市デザイン工学
	福井 恒明 教授	景観計画, 景観設計
	今井 龍一 教授	都市交通計画, 土木情報学
環境システム系	道奥 康治 教授	陸水域環境
	酒井 久和 教授	地盤地震工学, 防災工学
	鈴木 善晴 教授	水文気象学, 水文環境学
施設デザイン系	溝渕 利明 教授	コンクリート材料学, 構造物診断技術
	山本 佳士 教授	構造工学, 計算工学
	内田 大介 教授	鋼構造学, メンテナンス工学

※各教員の専門分野・研究業績等については下記を参照してください。

法政大学学術研究データベース <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

※〈兼任教員〉授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

6. <都市環境デザイン工学専攻修士課程キャリア3年コース> 建築士資格取得について

※2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、2020年度建築士試験より受験資格が変更となる可能性があります。詳細は公益財団法人建築技術教育普及センターのHPを参照ください。
(https://www.jaic.or.jp/other_info/2018kaisei.html)

二級・木造建築士

分類	大学、短期大学、高等専門学校、職業能力開発総合大学校、職業能力開発大学校、職業能力開発短期大学校		
①建築設計製図	3 単位		
②建築計画	2 単位		
③建築環境工学			
④建築設備			
⑤構造力学			
⑥建築一般構造	3 単位		
⑦建築材料	1 単位		
⑧建築生産			
⑨建築法規	1 単位		
①～⑨の計(a)	10 単位		
⑩複合・関連科目(b)	適宜		
(a)+(b)	40 単位	30 単位	20 単位
受験資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 0 年		
免許登録資格 必要となる建築実務の経験年数	卒業後 0 年	卒業後 1 年	卒業後 2 年

財団法人建築技術教育普及センターより

二級・木造建築士の場合

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位を充足し、かつ、①～⑨と⑩の合計数が20単位以上の場合、卒業後すぐに試験を受験できます。

試験を合格した場合に、免許登録に当たっては①～⑨と⑩の合計数に応じ下記の年数が必要です。

20 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2 年」

30 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「1 年」

40 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「0 年」

なお、二級・木造の場合は分野が一級に比べて、大分類化されています。

※本履修ガイド巻末に科目チェックシートがありますので、そちらを確認し履修計画を立ててください。

システムデザイン専攻

1. 目標

- < 1 > モノづくりやシステムづくりの創生プロセスを様々な面から総合的に研究することができる高度専門技術者及び研究者の育成
- < 2 > 新しい問題を発見し、解決すべき課題として定式化し、解決策を提示できる能力を身につけた人材の育成と輩出
- < 3 > 昼夜および土曜開講制による社会に開かれた大学院

2. 修士課程 授業科目一覧

共通基盤科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
建築計画学概論 Introduction to Architectural Planning	1		2	
近現代デザイン概論 Introduction to Modern Form Design	1		2	
環境工学概論 Introduction to Environmental Engineering	1		2	
景観デザイン概論 Introduction to Landscape Design	1		2	
地域・都市再生概論 Introduction to Regional and Urban Renewal	1		2	
環境技術英語 Technical English Presentation	1		2	
知的財産権論 Theory of Intellectual Property Rights	1		2	
現代産業論 Analysis of Modern & Innovative Industry	1		2	
プレゼンテーション技法 Presentation Methods	1		2	2023年度以降入学者
国際研修プログラム International Workshop Program	1		3	

基盤科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
テクニカルライティング Technical Writing	1		2	
プレゼンテーション技法 Presentation Methods	1		2	2022年度以前入学者
ヒューマンサイエンス論 Human Science	1		2	
コンピュータサイエンス論 Computer Science	1		2	
ブランド戦略とデザイン Brand Strategy and Design	1		2	
身体表現論 Theory of Kinetic Expressions	1		2	
システムデザイン特別講義 Advanced System Design	1		2	
技術英語演習 English Presentation for Design Thinking and Discussion	1		2(3)	休講 2022年度以前入学者 は3単位

専門科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
ソシオシステムデザイン論 Socio-system Design	1		2	
インタフェースデザイン論 Interface Design	1		2	
ヒューマニティデザイン論 Humanity Design Theory	1		2	
ビジュアライゼーションデザイン論 Visualization Design	1		2	2023 年度以降入学者
製品デザイン原論 Product Design	1		2	
知能機械デザイン論 Intelligent Machine Design	1		2	
知能情報技術論 Intelligent Information Technology	1		2	
構造デザイン論 Structural Design	1		2	休講
アフェクティブデザイン論 Affective Design	1		2	2023 年度以降入学者
メカニカルデザイン論 Mechanical design	1		2	
プロダクションデザイン論 Production Design	1		2	
マネジメントサイエンス論 Management Science	1		2	
新規事業創造論 New Business Venturing	1		2	2023 年度以降入学者
システム工学論 Systems Engineering	1		2	
品質マネジメント論 Quality Management	1		2	
特別研究 Special Research	1		2	休講

スタジオ科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
システムデザインワークショップ (PBL) Engineering and Design Workshop (PBL)	1		2	

プロジェクト科目

授業科目	推奨 配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
システムデザイン修士研修 1 Advanced Study of Engineering and Design for Master's Program 1	1	1		
システムデザイン修士研修 2 Advanced Study of Engineering and Design for Master's Program 2	1 (2)	1		
システムデザイン修士研修 3 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 3	(1) 2	1		
システムデザイン修士研修 4 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 4	2	1		※修士論文と合わせて履修登録すること
システムデザイン修士プロジェクト 1 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 1	1	2		
システムデザイン修士プロジェクト 2 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 2	1 (2)	1		
システムデザイン修士プロジェクト 3 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 3	(1) 2	1		
システムデザイン修士プロジェクト 4 Advanced Engineering and Design Project for Master's Program 4	2	2		※修士論文と合わせて履修登録すること
修士論文(SD) Master's Thesis	2	0	—	

◎推奨配当年次 (1) または (2) の科目は、留学等が理由の場合、審査の上、他のプロジェクト科目と同時履修が可能ですので、事前に指導教員に相談してください。

3. 博士後期課程 授業科目一覧

専門科目

授業科目	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
デザイン創生学特論 Advanced Study of Design Innovation	1		2	
知能システムデザイン特論 Advanced Study of Intelligent System Design	1		2	
システムマネジメント特論 Advanced Study of System Management	1		2	

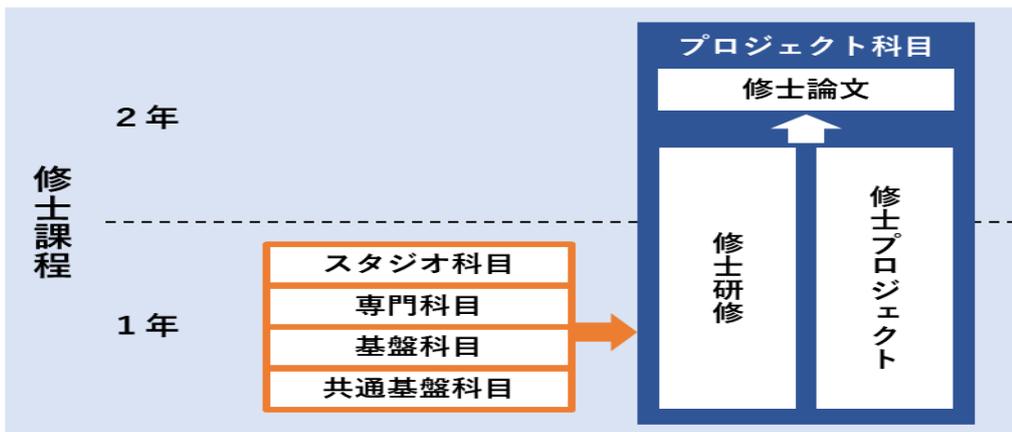
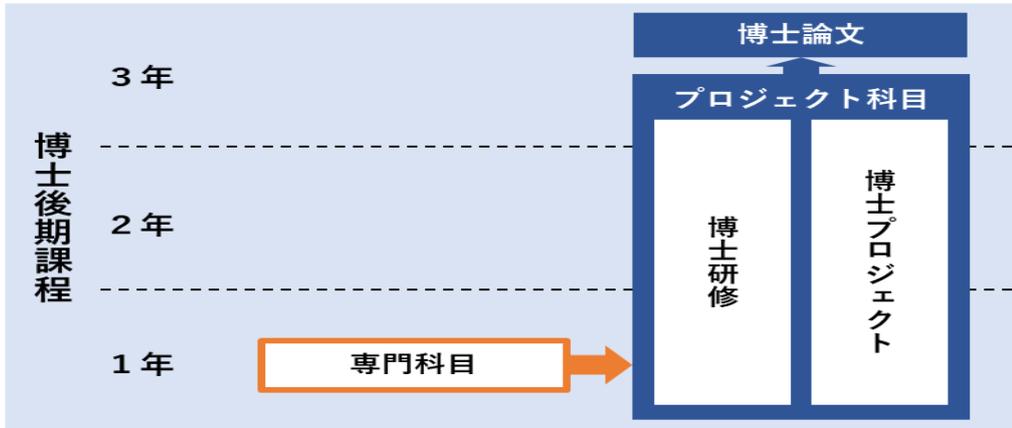
プロジェクト科目

授業科目	推奨 配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
システムデザイン博士研修 1 Advanced Engineering and Design for Doctor's Program 1	1	1		
システムデザイン博士研修 2 Advanced Engineering and Design for Doctor's Program 2	1 (2)	1		
システムデザイン博士研修 3 Advanced Engineering and Design for Doctor's Program 3	(1) 2	1		
システムデザイン博士研修 4 Advanced Engineering and Design for Doctor's Program 4	2	1		
システムデザイン博士研修 5 Advanced Engineering and Design for Doctor's Program 5	(2) 3	1		
システムデザイン博士プロジェクト 1 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 1	1	1		
システムデザイン博士プロジェクト 2 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 2	1 (2)	1		
システムデザイン博士プロジェクト 3 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 3	(1) 2	1		
システムデザイン博士プロジェクト 4 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 4	(1) 2	1		
システムデザイン博士プロジェクト 5 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 5	(2) 3	1		
システムデザイン博士プロジェクト 6 Advanced Engineering and Design Project for Doctor's Program 6	(2) 3	1		

◎推奨配当年次 (1) または (2) の科目は、留学等が理由の場合、審査の上、他のプロジェクト科目と同時履修が可能ですので、事前に指導教員に相談してください。

4. カリキュラムツリー

システムデザイン専攻 カリキュラムツリー



5. 専任教員と専門分野（2023年4月1日現在）

安積 伸 教授	プロダクトデザイン
岩月 正見 教授	ロボット工学, コンピュータビジョン
大西 景太 教授	ビジュアライゼーション, モーショングラフィックス
姜 理恵 教授	アントレプレナーシップ, ベンチャー, スタートアップ
SEONG Young ah 教授	インタラクションデザイン, アフェクティブデザイン
田中 豊 教授	メカトロニクス, アクチュエータ, フルードパワー工学
土屋 雅人 教授	インタフェースデザイン
西岡 靖之 教授	知識工学, 情報工学, 生産工学
野々部 宏司 教授	オペレーションズ・リサーチ, 組合せ最適化
山田 泰之 准教授	メカニズムデザイン

※各教員の専門分野・研究業績等については下記を参照してください。

法政大学学術研究データベース <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

※〈兼任講師〉授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

市ヶ谷キャンパス 案内図



市ヶ谷田町校舎 案内図

教室設備ガイド URL : <http://www.hoseiyoiku.jp/facilities/>



本館

別館

建築学専攻キャリア3年コース 建築士指定科目一覧（2014年度以降入学者用）

適宜自身の科目取得のチェックシートとしてご使用ください。

入学年度によって一部科目で科目名・単位数が異なります。ご注意ください。

※指定科目に申請予定の科目となります。
 審査結果により指定科目とならない場合がございます。
 予めご承知の上履修計画を立ててください。

指定科目の分類			現在の指定科目						
二級・木造	一級	分類番号	科目名	※	履修学年	単位数	チェック欄		
①建築設計製図	①建築設計製図	①	デザインスタジオ1（学部合併科目）		1	3			
		①	デザインスタジオ2（学部合併科目）		1	3			
		①	デザインスタジオ3（学部合併科目）		1	3			
		①	デザインスタジオ4（学部合併科目）		1	3			
		①	デザインスタジオ5（学部合併科目）		1～3	3			
		①	デザインスタジオ6（学部合併科目）		1～3	3			
						1～3	3		
						1～3	3		
						2・3	6		
						2・3	6		
						2・3	6		
						2・3	6		
						2・3	6		
						2・3	6		
						2・3	6		
				①	（2018年度以前入学生）		1～3	3	
				①	構法スタジオ1（学部合併科目） （2019年度以降入学生）		1～3	2	
		①	構法スタジオ2（建築学科科目） （2019年度以降入学生）		1～3	2			
		①	エンジニアリングスタジオ（建築学科科目） （2019年度以降入学生）	※	1～3	3			
二級・木造①：実務0～2年→5単位以上 実務3～5年→3単位以上 一級①：7単位以上						小計			
②建築計画 ③建築環境工学 ④建築設備	②建築計画	②	建築計画1（学部合併科目）		1～3	2			
		②	建築計画2（学部合併科目）		1～3	2			
		②	デザイン理論（建築）（建築学科科目）		1～3	2			
		②	Design Basics in English（学部合併科目） （2016年度以降入学生）		1	2			
		②	建築と文化（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		②	アーバンイズム（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		②	風土と建築（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		②	都市建築史スタジオ（学部合併科目） （2019年度以降入学生）		1	3			
		②	西洋建築史（学部合併科目）		1	2			
		②	近現代建築史（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		②	都市建築史（学部合併科目） （2019年度以降入学生）	※	1	2			
		②	日本建築史（学部合併科目）		1	2			
		②	都市史（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		②	日本建築史実習（建築学科科目） （2019年度以降入学生）	※	1	1			
		②	近現代デザイン概論		1・2	2			
		②	建築の空間と形態（建築学科科目）		1	2			
		一級②：7単位以上						小計	
③建築環境工学	③	③	建築生理心理2（建築学科科目）		1・2	2			
		③	建築気候（建築学科科目）		1・2	2			
		③	光・視環境（学部合併科目）		1	2			
		③	音・振動環境（建築学科科目）		1～3	2			
		③	環境工学概論		1・2	2			
一級③：2単位以上						小計			
④建築設備	④	④	設備デザイン基礎（建築学科科目）		1・2	3			
		④	空気調和設備（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1・2	2			
		④	給排水・電気設備（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1・2	2			
		④	設備入門（学部合併科目） （2019年度以降入学生）		1・2	2			
		④	設備計画概論		1・2	2			
		④	建築設備特論		2・3	2			
一級④：2単位以上						小計			
二級・木造②③④：実務0～2年→7単位以上 実務3～5年→2単位以上						小計			



⑤構造力学 ⑥建築一般構造 ⑦建築材料	⑤構造力学	⑤	材料の力学（学部合併科目）		1	2			
		⑤	部材の力学（学部合併科目）		1	2			
		⑤	骨組の力学（建築学科科目）		1・2	2			
		⑤	平面の力学（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1・2	2			
		⑤	構造とマトリクス（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	2			
		⑤	建物の耐力（建築学科科目）		1～3	2			
		⑤	構造実験（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	2			
		⑤	建築構造力学特論		2・3	2			
		⑤	曲面構造特論		2・3	2			
		⑤	構造解析特論		2・3	2			
		⑤	ビルディングワークショップ（建築学科科目） （2019年度以降入学生）	※	1～3	3			
		一級⑤：4単位以上						小計	
		⑥建築一般構造	⑥建築一般構造	⑥	建築のしくみ（学部合併科目）		1	2	
⑥	鉄筋コンクリートのデザイン（建築学科科目）				1～3	2			
⑥	鋼のデザイン（建築学科科目）				1～3	2			
⑥	木造建築の構法（建築学科科目） （2018年度以前入学生）				1～3	2			
⑥	構造デザインの実践（建築学科科目） （2018年度以前入学生）				1～3	2			
⑥	空間の構造デザイン（学部合併科目）				1～3	2			
⑥	建物の振動と耐震化（建築学科科目）				1～3	2			
⑥	建築の地盤力学（建築学科科目）				1～3	2			
⑥	地震工学概論				1・2	2			
一級⑥：3単位以上						小計			
⑦建築材料	⑦建築材料	⑦	建築材料（学部合併科目）		1～3	2			
		⑦	材料特性実験（建築学科科目）		1～3	2			
		⑦	材料のデザイン（建築学科科目）		1～3	2			
一級⑦：2単位以上						小計			
二級・木造⑤⑥⑦：実務0～2年→6単位以上 実務3～5年→3単位以上						小計			
⑧建築生産	⑧建築生産	⑧	建築生産（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	2			
		⑧	施工管理（学部合併科目）		1～3	2			
		⑥	木造建築の構法（建築学科科目） （2019年度以降入学生）		1～3	2			
二級・木造⑧：1単位以上 一級⑧：2単位以上						小計			
⑨建築法規	⑨建築法規	⑨	建築法規（建築）（学部合併科目）		1～3	2			
二級・木造⑨：1単位以上 一級⑨：2単位以上						小計			
⑩その他	⑩その他	⑩	造形スタジオ（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1	3			
		⑩	図形の技術（建築学科科目）		1	2			
		⑩	建築入門（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		⑩	デジタルスタジオ（建築学科科目）		1・2	3			
		⑩	フィールドワーク（建築）（建築学科科目）		1・2	3			
		⑩	建築論・建築造形論（学部合併科目） （2018年度以前入学生）		1	2			
		⑩	建築デザイン論1（学部合併科目） （2019年度以降入学生）	※	1	2			
		⑩	建築の測量実習（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	3			
		⑩	構造計算プログラミング1（建築学科科目）		1～3	2			
		⑩	構造計算プログラミング（建築学科科目）		1～3	2			
		⑩	環境生態学（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	2			
		⑩	建築生理心理1（建築学科科目）		1～3	2			
		⑩	サステイナブルデザイン（学部合併科目）		1	2			
		⑩	建築史概論		1・2	2			
		⑩	特殊環境特論		2・3	2			
		⑩	都市解説方法特論		2・3	2			
		⑩	建築設計特論		2・3	2			
		⑩	空間解析特論		2・3	2			
		⑩	都市計画（建築学科科目） （2018年度以前入学生）		1～3	2			
⑩	建築デザイン論2（学部合併科目） （2019年度以降入学生）	※	1	2					
二級・木造⑩：適宜 一級⑩：適宜						小計			

①～⑨の単位数合計	
総単位数(①～⑩の単位数合計)	

都市環境デザイン工学専攻キャリア3年コース 建築士指定科目一覧

適宜自身の科目取得のチェックシートとしてご使用ください。

入学年度によって一部科目で科目名・単位数が異なります。ご注意ください。

※指定科目に申請予定の科目となります。
 審査結果により指定科目とならない場合がございます。
 予めご承知の上履修計画を立ててください。

指定科目の分類		指定科目				
二級・木造	分類番号	科目名	※	履修学年	単位数	チェック欄
①建築設計製図	①	プロジェクトスタジオ (学部合併科目)		1	3	
	①	建築設計基礎 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	3	
実務0~2年→5単位以上 実務:						
②建築計画	②	<h1>更新中</h1>				
③建築環境工学	②					
④建築設備	②					
	②					
	③					
実務0~2年→7単位以上 実務:						
⑤構造力学	⑤					
⑥建築一般構造	⑤					
⑦建築材料	⑤	構造力学2 (学部合併科目)		1	2	
	⑥	鋼構造学及演習 (学部合併科目)		1	3	
	⑥	P C構造デザイン (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
	⑥	R C構造学及演習 (学部合併科目)		1	3	
	⑥	鋼構造デザイン実習 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	1	
	⑥	R C構造デザイン実習 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	1	
	⑥	鋼構造の疲労		2	2	
	⑥	複合材料構造解析		2	2	
	⑥	構造解析と設計		3	2	
	⑦	建設材料学基礎 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
⑦	コンクリート工学及演習 (学部合併科目)		1	3		
⑦	材料科学概論		1	2		
実務0~2年→6単位以上 実務3~5年→3単位以上		小計				
⑧建築生産	⑧	検査技術 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
	⑧	コンクリート技術 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
	⑧	ライフサイクルエンジニアリング		2	2	
1単位以上		小計				
⑨建築法規	⑨	建築法規 (都市) (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
1単位以上		小計				
⑩その他	⑩	測量実習 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	1	
	⑩	デザインスタジオ (学部合併科目)		1	3	
	⑩	ランドスケープデザイン (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	

⑩	技術者倫理 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
⑩	図学及演習 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	3	
⑩	都市デザイン (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	2	
⑩	国土・地域概論 (学部合併科目)		1	2	
⑩	都市計画法と政策 (学部合併科目)		1	2	
⑩	公共空間デザイン及演習 (都市環境デザイン工学科科目)		1~3	3	
⑩	景観デザイン概論		1	2	
⑩	比較都市環境デザイン		2	2	
⑩	耐久性力学		2	2	
				小計	

適宜取得

①～⑨の単位数合計	
総単位数(①～⑩の単位数合計)	

2023年度 法政大学デザイン工学研究科 オフィスアワー一覧

※一覧に記載のない教員は、学内に研究室がないため、授業の開始前後に教室または4階の講師室で質問・相談を受け付けます。

専攻	教員氏名	場所	オフィスアワー								メールアドレス
			A期		B期		C期		D期		
建築	赤松 佳珠子 教授	T3007	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	k.akamatsu@hosei.ac.jp
	網野 禎昭 教授	T3006	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	火	12:20~13:00	amino@hosei.ac.jp
	安藤 直見 教授	T3010	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	n-ando@hosei.ac.jp
	岩佐 明彦 教授	T3005	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	iwasa@hosei.ac.jp
	川久保 俊 教授	T3011	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	kawakubo@hosei.ac.jp
	小堀 哲夫 教授	T3004	月	12:30~13:00	月	12:30~13:00	月	12:30~13:00	月	12:30~13:00	tetsuo.kobori@hosei.ac.jp
	下吹越 武人 教授	T3008	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	t-shimohigoshi@hosei.ac.jp
	高村 雅彦 教授	T3001	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	takamura@hosei.ac.jp
	中野 淳太 教授	T3012	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	jnakano@hosei.ac.jp
	浜田 英明 教授	T3009	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	月	12:20~13:00	月	12:20~13:00	h.hamada@hosei.ac.jp
	山道 拓人 准教授	T3003	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	takuto.sando.74@hosei.ac.jp
	宮田 雄二郎 准教授	T3002	月	12:20~13:00	月	12:20~13:00	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	yujiro.miyata.48@hosei.ac.jp
都市	今井 龍一 教授	T2007	金	12:20~13:00	金	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	imai@hosei.ac.jp
	内田 大介 教授	T2010	月	13:30~14:30	月	13:30~14:30	月	13:30~14:30	月	13:30~14:30	daisuke.uchida.53@hosei.ac.jp
	酒井 久和 教授	T2003	水	15:00~16:00	木	10:40~12:20	火	10:40~12:20	火	10:40~12:20	hisakai@hosei.ac.jp
	鈴木 善晴 教授	T2001	木	12:30~13:30	金	12:30~13:30	金	12:30~13:30	金	12:30~13:30	y-suzuki@hosei.ac.jp
	高見 公雄 教授	T2002	月	15:00~16:00	木	15:00~16:00	水	12:30~13:30	水	12:30~13:30	takami@hosei.ac.jp
	福井 恒明 教授	T2006	2023年度在外研究								fukui@hosei.ac.jp
	溝淵 利明 教授	T2009	月	10:40~11:40	月	13:30~14:30	火	13:30~14:30	火	13:30~14:30	mizobuch@hosei.ac.jp
	道奥 康治 教授	T2008	火	13:30~15:30	火	13:30~15:30	水	13:30~15:30	木	9:00~12:30	kohji.michioku.47@hosei.ac.jp
	山本 佳士 教授	T2004	火	12:30~13:30	火	12:30~13:30	火	12:30~13:30	火	12:30~13:30	y.yamamoto@hosei.ac.jp
SD	安積 伸 教授	T1005	金	13:00~14:40	金	13:00~14:40	火	13:00~14:40	火	13:00~14:40	s-az@hosei.ac.jp
	岩月 正見 教授	T1011	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	iwatsuki@hosei.ac.jp
	大西 景太 教授	T1012	木	13:30~14:30	木	13:30~14:30	木	13:30~14:30	金	17:00~18:00	k-onishi@hosei.ac.jp
	姜 理恵 教授	T1007	火	10:40~12:20	火	10:40~12:20	火	10:40~12:20	火	10:40~12:20	rie@hosei.ac.jp
	ソン ヨンア 教授	T1009	月	12:20~13:00	月	12:20~13:00	水	12:20~13:00	水	12:20~13:00	seong@hosei.ac.jp
	田中 豊 教授	T1001	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	y_tanaka@hosei.ac.jp
	土屋 雅人 教授	T1006	火	12:20~13:00	火	12:20~13:00	木	12:20~13:00	木	12:20~13:00	tsuchiya@hosei.ac.jp
	西岡 靖之 教授	T1010	水	10:40~12:20	水	10:40~12:20	金	10:40~12:20	金	10:40~12:20	nishioka@hosei.ac.jp
	野々部 宏司 教授	T1008	月	10:40~12:20	月	10:40~12:20	木	13:30~14:30	水	10:40~12:20	nonobe@hosei.ac.jp
	山田 泰之 准教授	T1003	水	13:00~14:30	水	8:50~10:30	水	10:40~12:20	水	10:40~12:20	y.yamada@hosei.ac.jp